

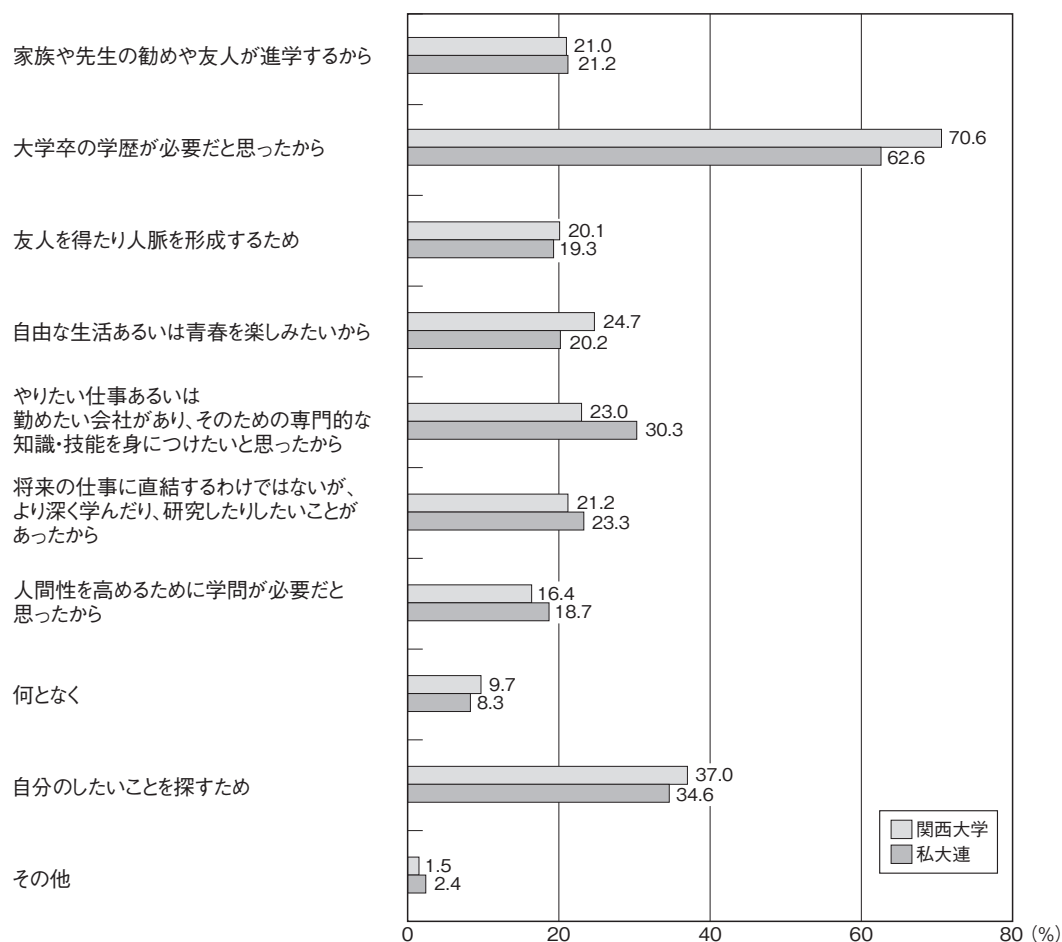
# 2021年度 学生生活実態調査報告書



関西大学学生センター

# 大学に進学した理由

## 問10 大学進学の実態は何か。(3つまで)



【基数：対象者全員】

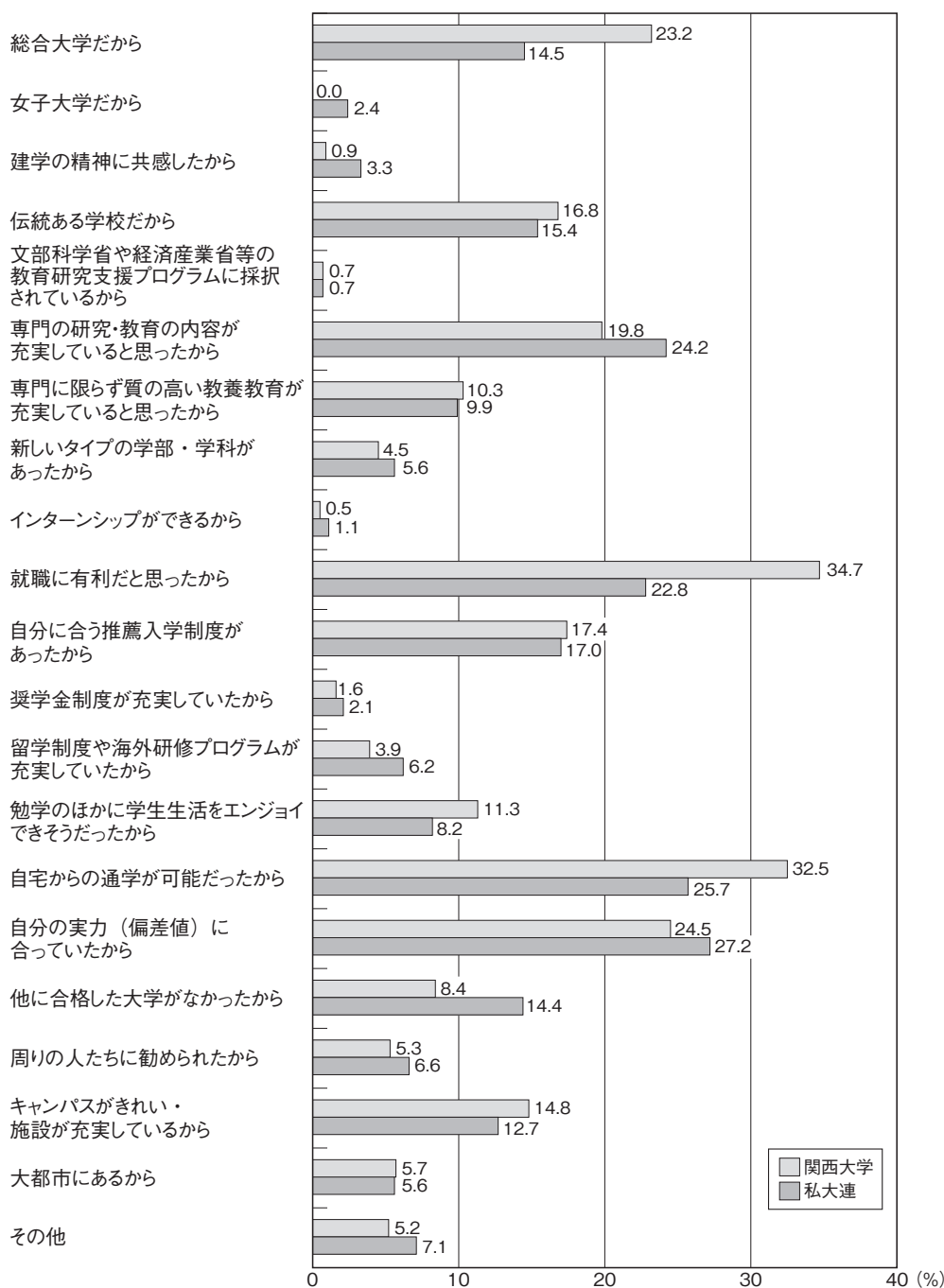
### 「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が1位

本学学生の大学に進学した目的として最も多かったのは、「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が70.6%、次いで「自分のしたいことを探するため」が37.0%、「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」が24.7%という結果となった。

全国平均と比較すると「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が8.0ポイント、「自分のしたいことを探するため」が2.4ポイント高く、将来の具体的な目標は決まっていないものの、将来の進路を見据え、本学に進学していることがうかがえる。

# 本学を選択した理由

## 問11 在学中の大学を選択した理由は何ですか。(3つまで)



【基数：対象者全員】

### 「就職に有利だと思ったから」が根強い

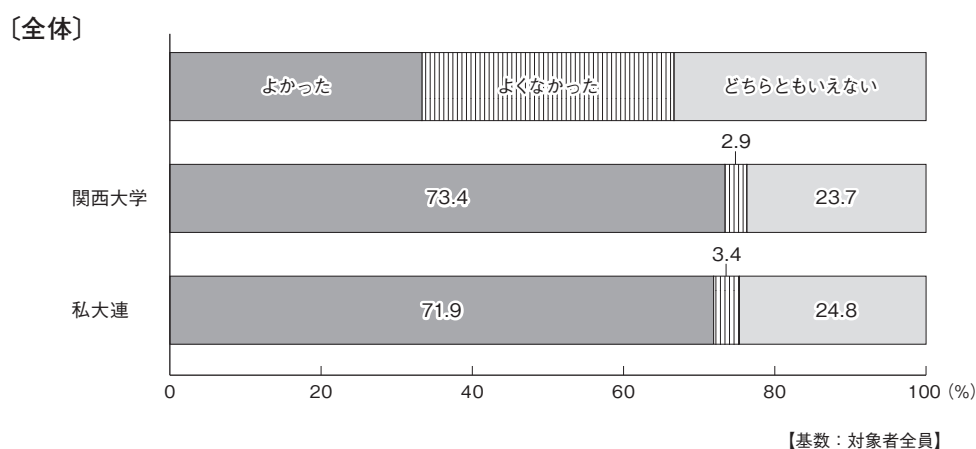
本学を選択した理由を見ると、「就職に有利だと思ったから」が34.7%と最も高く、次いで「自宅からの通学が可能だったから」が32.5%であった。

「就職に有利だと思ったから」が全国平均よりも11.9ポイント高く、前回調査(2017年度)よりも、1.2ポイント高くなっていることから、本学を選択するうえで引き続き大きな理由となっていることがうかがえる。

また、「総合大学だから」が全国平均より、8.7ポイント高い結果となり、様々な分野で学ぶ学生がいることも大きな要因となっていることが考えられる。

# 入学してよかった点

問12 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。(1つだけ)



## 社会学部の満足度が高い

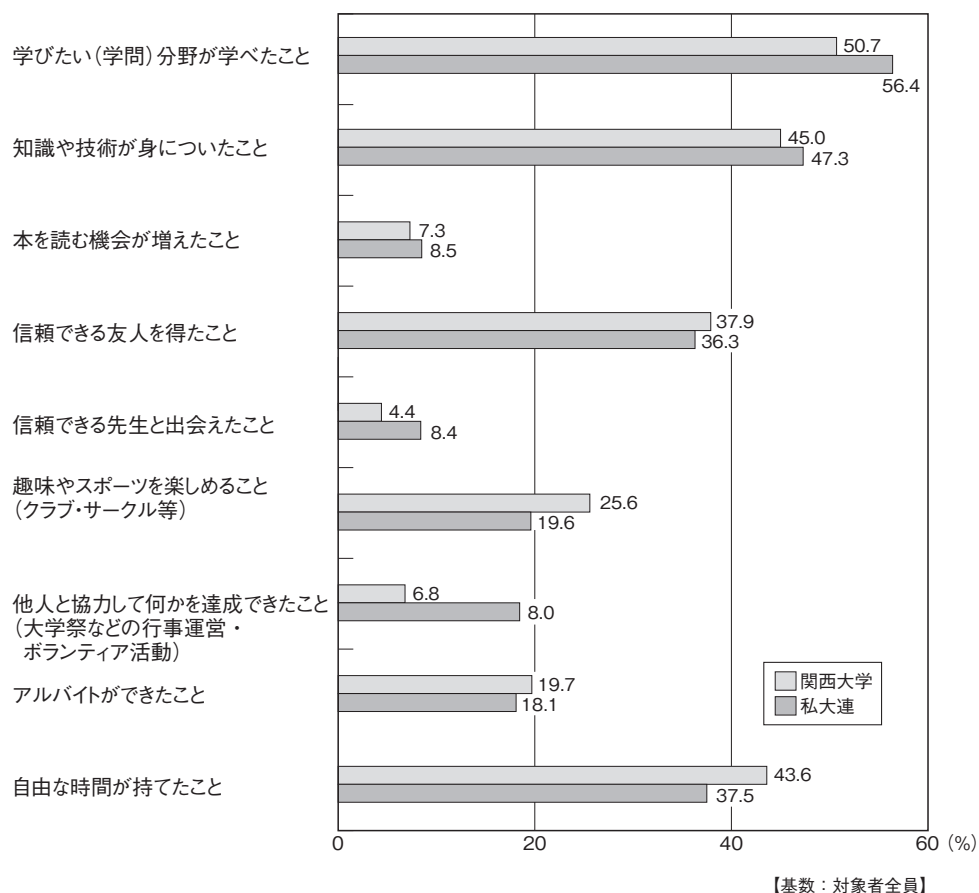
所属する学部・学科への満足度について調査した本項目では、本学学生の73.4%が「よかった」と回答し、全国平均の71.9%よりも1.5ポイント高い結果となった。

また、学部別でクロス集計表を見ると、社会学部が85.8%と最も高く、次いで外国語学部が85.3%、人間健康学部が83.6%という結果となった。

さらに、経過学年別でクロス集計表を見ると、上位年次生の方が「よかった」と回答した学生の割合が高くなっており、上位年次になるほど、充実した大学生活を過ごしているといえるだろう。

# 入学してよかった点

問13 大学に入ってよかったと思うのは、どういう点ですか。(3つまで)



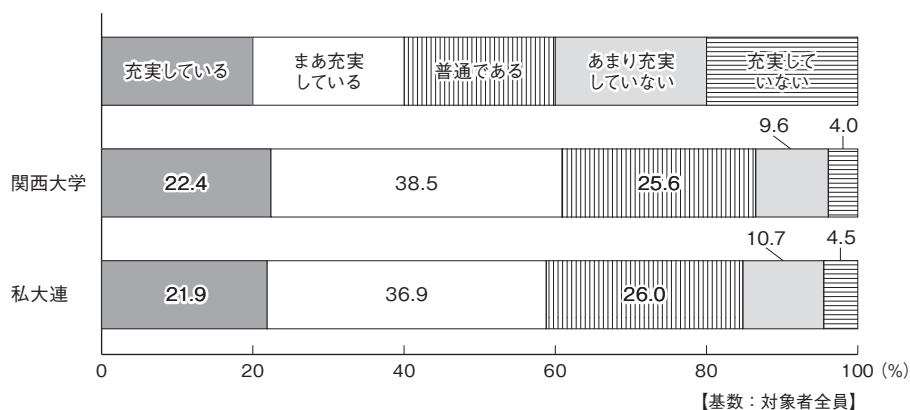
## 「学びたい(学問)分野が学べたこと」に高い満足度

学生が本学に入学してよかったと思っている点は、「学びたい(学問)分野が学べたこと」が50.7%で最も高く、次いで「知識や技能が身についたこと」が45.0%、「自由な時間が持てたこと」が43.6%であった。

一方で「他人と協力して何かを達成できたこと(大学祭などの行事運営・ボランティア活動)」が前回調査(2017年度)よりも5.7ポイント、全国平均よりも1.2ポイント下回っており、本学での学生生活を通じて知識や技能の習得に取り組む反面、大学行事への関わりの低下が懸念される結果となった。

# 学生生活の充実度

問14 あなたの学生生活は充実していますか。(1つだけ)



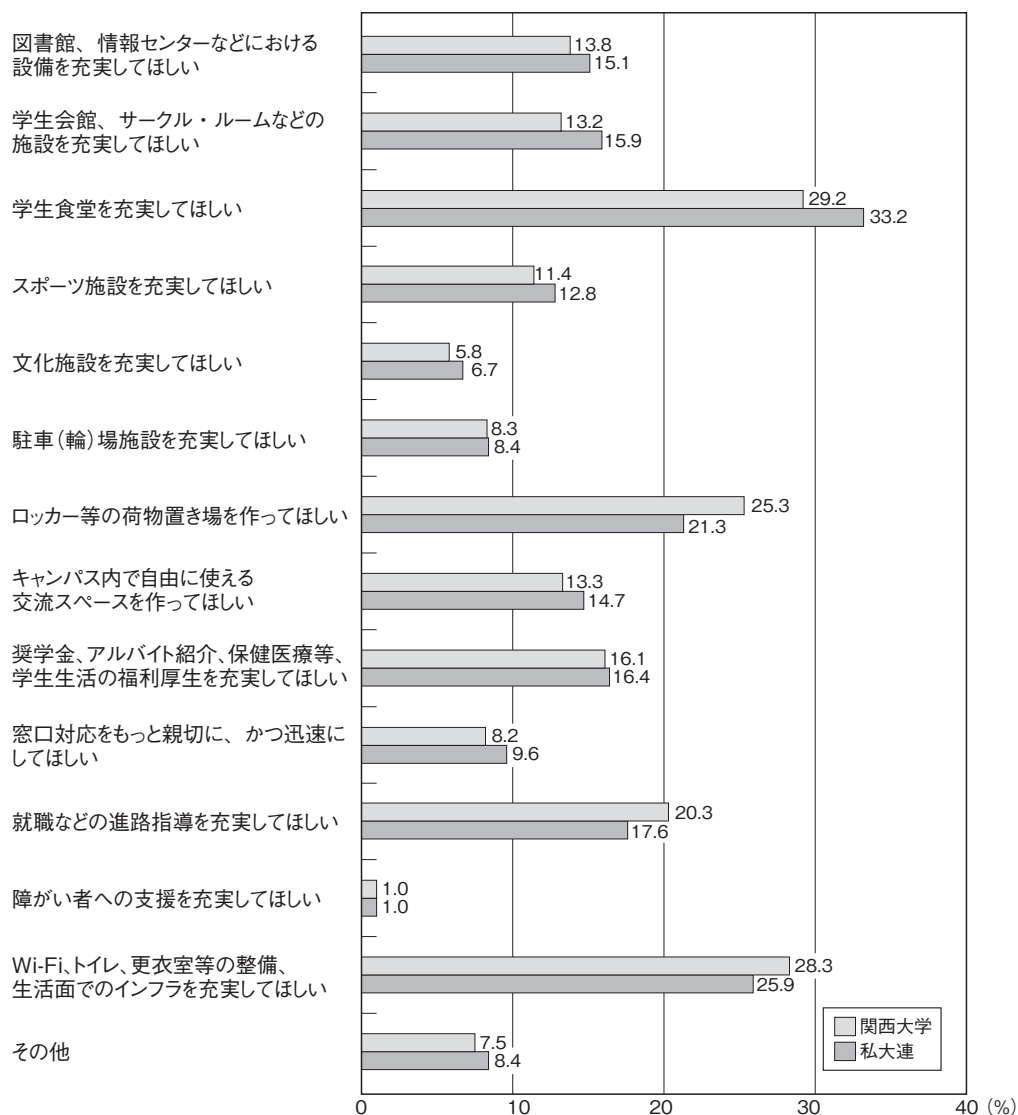
## 課外活動団体に所属している学生の充実度が高い

学生生活の充実度について、「充実している」「まあ充実している」を合計した「充実群」で見ると本学は60.9%となり、全国平均を2.1ポイント上回っているが、前回調査（2017年度）と比較すると10.4ポイント下回る結果となった。

クロス集計表で「充実群」を選択した学生の割合を見てみると、課外活動に参加していると回答した学生の割合が高い傾向がうかがえる。また、大学に入学して「よかった」と回答した学生の「充実度群」は71.5%と高く、大学生活の充実度と本学進学満足度が比例していることが分かる結果となった。

# 大学の施設・サービスへの要望

問15 大学の施設・サービスに対する期待や要望にはどのようなものがありますか。(3つまで)



【基数：対象者全員】

## 「学生食堂を充実してほしい」が1位

大学の施設・サービスに対する要望の1位は、前回調査(2017年度)と同様に、「学生食堂を充実してほしい」が29.2%であった。

次いで、今回の調査から新たに追加された「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」が28.3%で2位という結果となった。

全国平均の結果を見ても、「学生食堂を充実してほしい」、「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」が上位2項目となっている。

また、「学生食堂を充実してほしい」と回答した学生を学部別クロス集計表で見ると、人間健康学部が64.5%、社会安全学部が47.0%、総合情報学部が45.5%という結果となっており、これは前回調査(2017年度)と上位3学部が同様であり、堺キャンパス、高槻ミュージズキャンパス、高槻キャンパスにおいては、多数の学生が食堂の充実を望んでいるということが分かった。

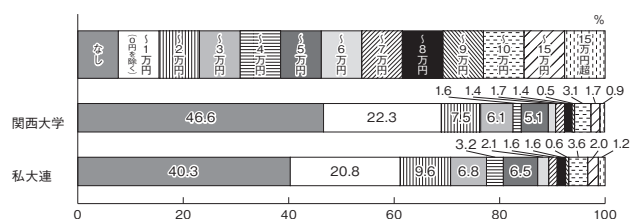
# 収入と支出

授業期間中におけるあなたの1カ月の収入・支出（学費を除く）についてお答えください。

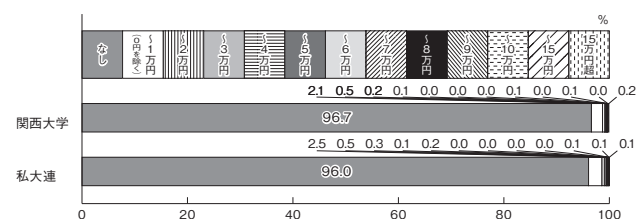
- 問16-①** 家族などからの援助（学費は除く）
- 問16-②** 自分で働いて得た収入（アルバイトも含む）
- 問16-③** 奨学金（給付・貸与を問わない）
- 問16-④** その他

- 問16-⑤** 総収入額
- 問16-⑥** 家賃／光熱水費（自宅通学者は回答不要）
- 問16-⑦** 食費（自宅通学者は外食費）
- 問16-⑧** 通信費（スマートフォン・インターネット）

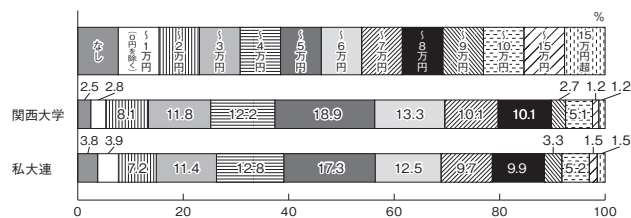
【Q16-①】 家族などからの援助（学費は除く）



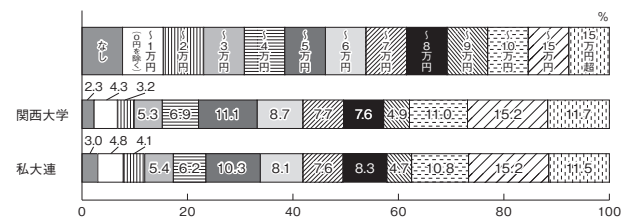
【Q16-④】 その他の収入



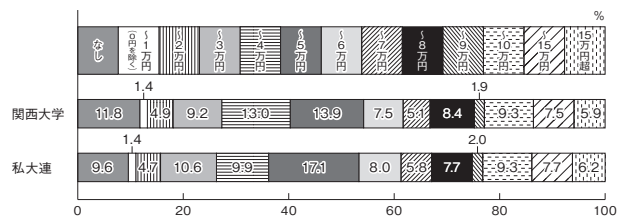
【Q16-②】 自分で働いて得た収入（アルバイトも含む）



【Q16-⑤】 総収入額



【Q16-③】 奨学金（給付・貸与を問わない）



【基数：対象者全員】

## 「家族などからの援助（学費は除く）」が減少傾向に

前回調査（2017年度）に引き続き、本学では1カ月の総収入額が、「10万円以上15万円未満」の学生が15.2%と最も高く、次いで「15万円以上」の学生が11.7%であった。全国平均も本学と同様、「10万円以上15万円未満」の学生が15.2%と最も高く、「15万円以上」の学生が11.5%であり、全国と同様の傾向がみられる結果となった。

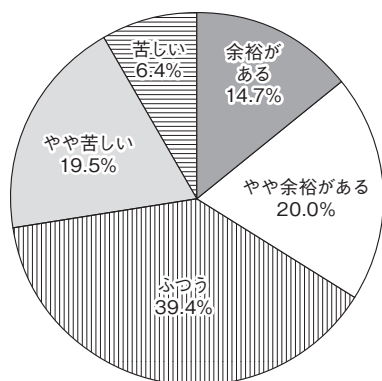
1カ月の収入で見ると、①「家族などからの援助（学費は除く）」が「なし」と回答した学生の割合は46.6%で、前回調査（2017年度）と比較すると6.3ポイント高い結果となった。総収入額が「10万円以上」と回答した学生の割合は前回調査（2017年度）より微増したものの、「家族などから援助（学費は除く）」が減少していることから、本学学生の経済状況は変化していないことが分かった。



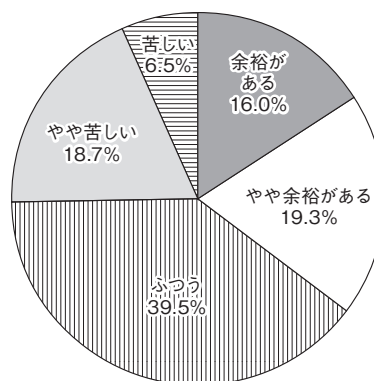
# 経済状況

問17 あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。(1つだけ)

[関西大学]



[私大連]



【基数：対象者全員】

## 経済状況が「やや苦しい」「苦しい」と回答した学生が減少

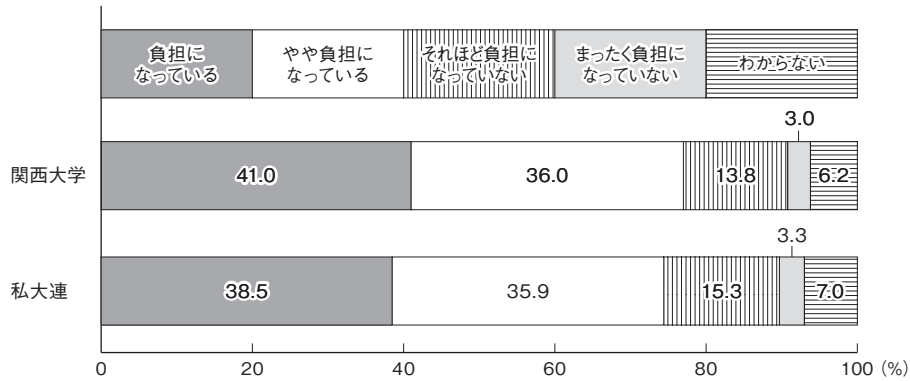
本学では、「余裕がある」、「やや余裕がある」と回答した割合が34.7%で、前回調査（2017年度）と比較すると、6.1ポイント高い結果となった。全国平均の結果を見てみると、前回調査（2017年度）よりも、5.2ポイント高い結果となっており、経済状況が好転していると感じている学生が全国平均を上回っていることが見てとれる。

問16（収入と支出）では、実状の経済状況の好転が見られなかったものの、「やや苦しい」、「苦しい」と回答した本学学生の割合が、前回調査（2017年度）と比較して7.5ポイント減少していることから、本学の学生は少なからず経済状況が好転していると感じていることが分かった。

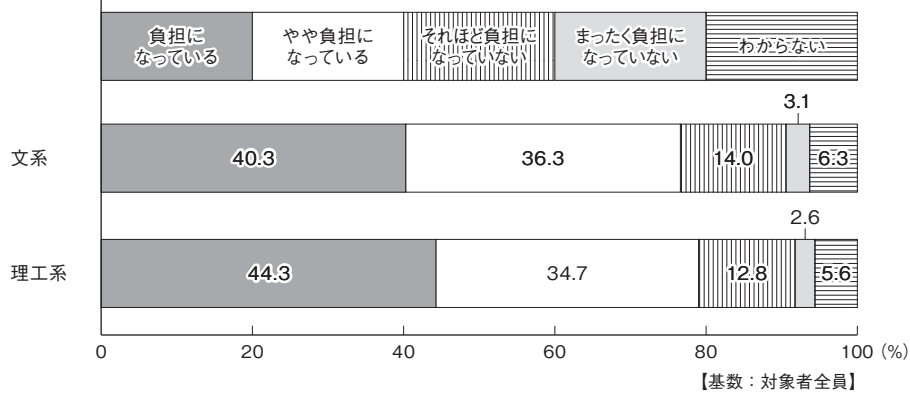
# 学費の負担

**問18** あなたの家の家計にとって、あなたの学費は負担になっていますか。（1つだけ）

〔全体〕



〔文系・理工系別〕



## 学費が家計の負担になっていると感じる学生がやや減少

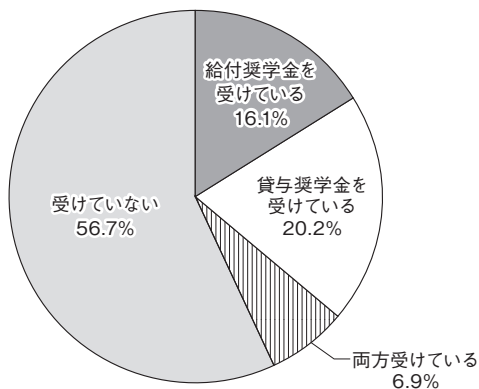
本学では、今回の調査で「負担になっている」、「やや負担になっている」と答えた学生の割合は77.0%であり、前回調査（2017年度）と比較して、5.4ポイント下回る結果となった。また、本学の結果を文系・理工系別で見ると、「負担になっている」、「やや負担になっている」と答えた学生の割合は、前回調査（2017年度）と比較して文系が4.8ポイント、理工系が7.9ポイント下回る結果となった。

これにより、学費が負担になっていると思う学生は前回調査（2017年度）と比較して、文系・理工系とも減少していることが分かった。

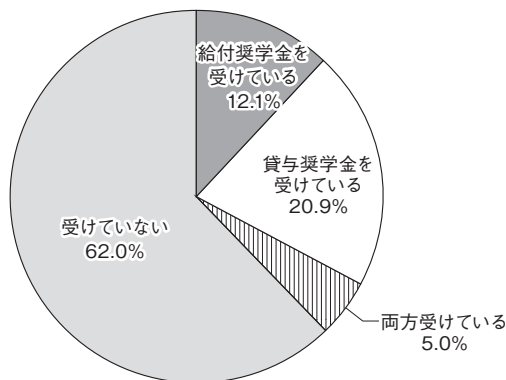
# 奨学金の受給状況と受給していない理由

**問19** 学内の奨学金を受けていますか。(1つだけ)

〔関西大学〕



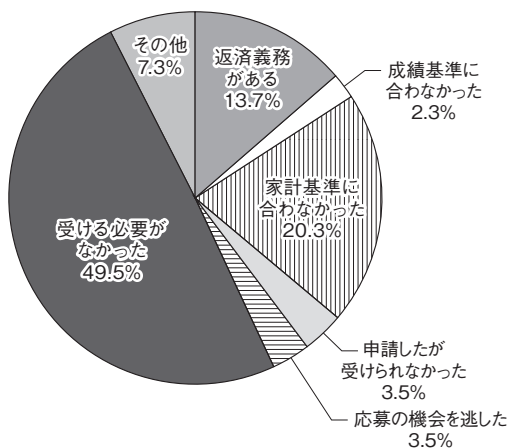
〔私大連〕



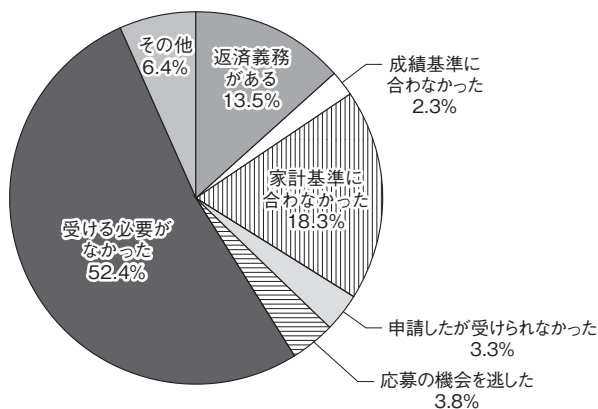
【基数：対象者全員】

**問20** 前問19で「受けていない」と答えた方にうかがいます。奨学金を受けていない理由を選んでください。(1つだけ)

〔関西大学〕



〔私大連〕



【基数：奨学金を受けていない人】

## 奨学金希望者が増加するも、家計基準合わず

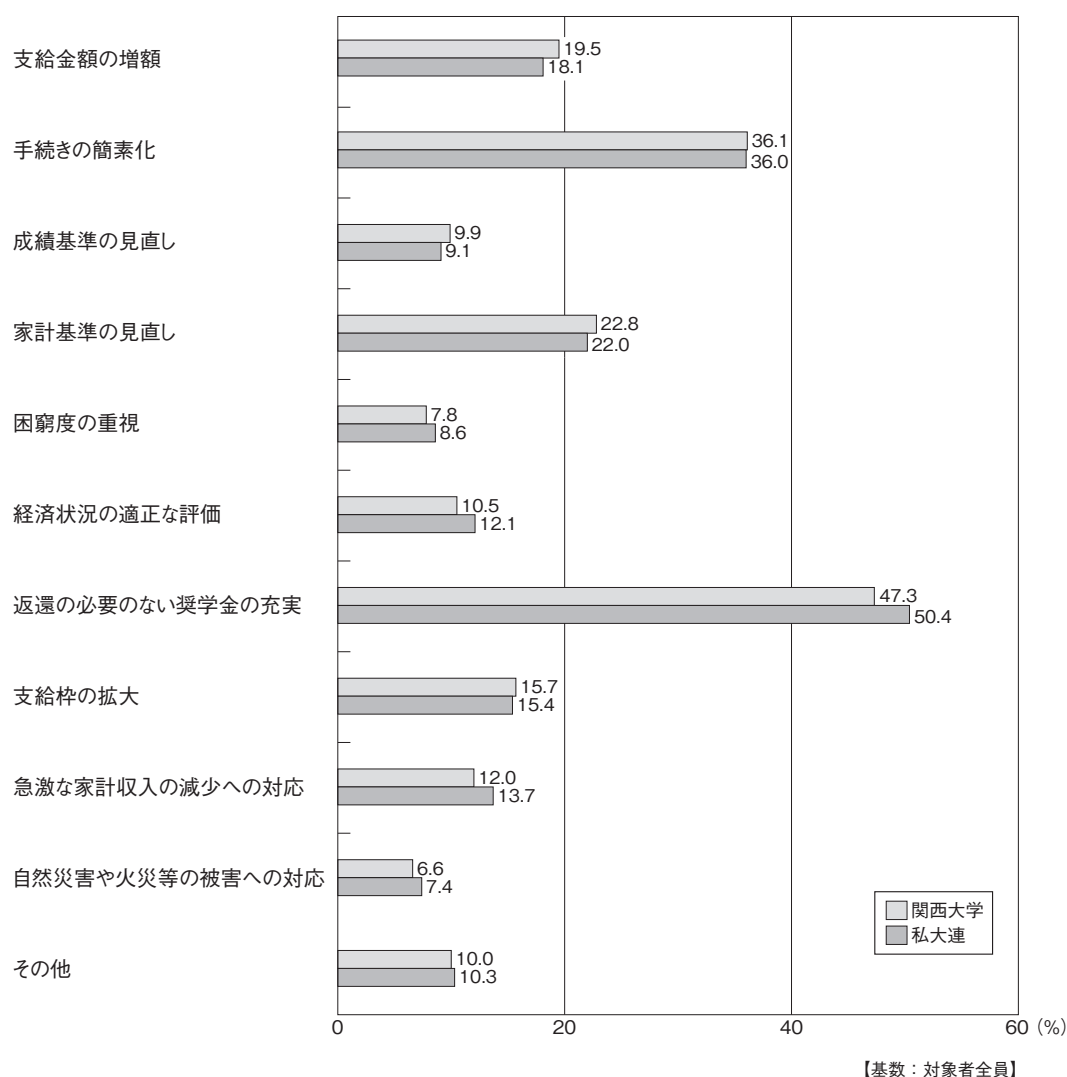
何らかの奨学金を「受けている」と回答した学生の割合は合わせて43.2%となっており、全国平均38.0%と比較すると5.2ポイント高く、前回調査（2017年度）と比べても1.5ポイント高くなっている。

一方、奨学金を「受けていない」と回答した学生のうち、「受ける必要がなかった」と回答した学生の割合が49.5%と最も高く、次いで「家計基準に合わなかった」が20.3%となった。前回調査（2017年度）では、「返済義務がある」と回答した学生の割合が本学及び全国平均ともに2番目に高かったが、今回は「家計基準に合わなかった」が2番目に高い結果となった。問19及び問20の結果から、全体の約70%の学生が奨学金を受給している又は奨学金を必要としている状況にあることが分かった。

また、奨学金を「受けていない」と回答した本学学生のうち、「応募の機会を逃した」と回答した学生は3.5%となっており、前回調査（2017年度）の5.0%から1.5ポイント低くなった。

# 奨学金制度

## 問21 奨学金制度に希望することは何ですか。（3つまで）



### 多様化する奨学金制度

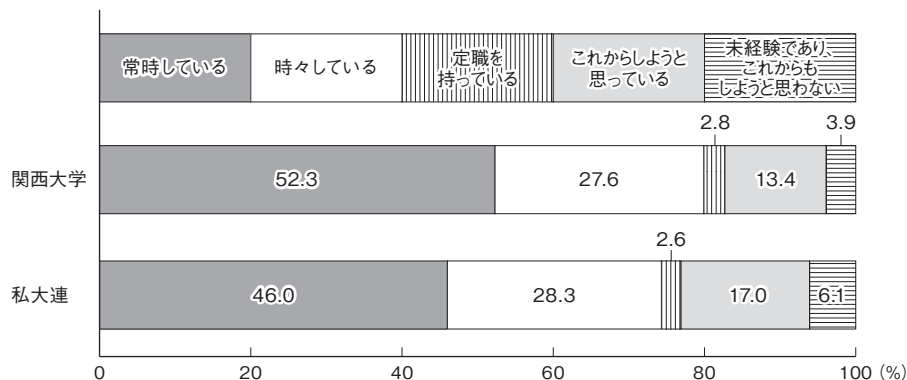
奨学金制度に希望することとして、「返還の必要のない奨学金の充実」が47.3%と最も高かったが、前回調査（2017年度）と比べて14.4ポイント低い結果となった。これは、2020年度から開始された「高等教育の修学支援新制度（授業料減免と給付奨学金がセットとなった制度）」が影響したものと推察されるが、本制度が実施された以降においても引き続き、「返還の必要のない奨学金の充実」を希望する学生の割合が高い状況であることが分かった。

また、全国平均を見ても「返還の必要のない奨学金の充実」が最も高く、次いで「手続きの簡素化」となっており、本学とほぼ同等の結果となっている。

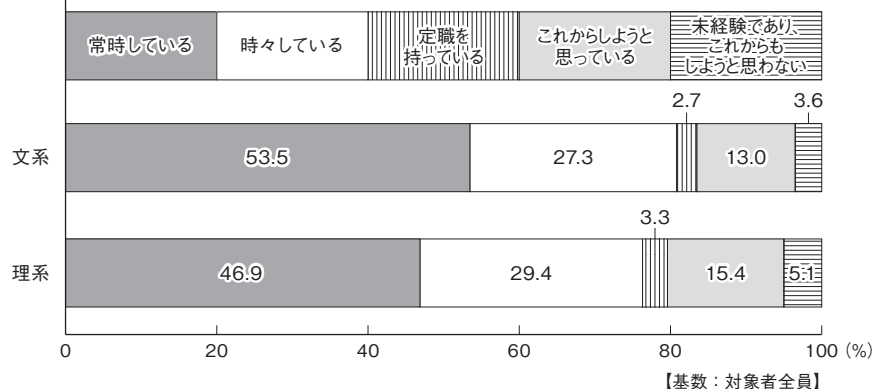
# 就労（アルバイトを含む）の状況

問22-① 就労（アルバイトを含む）について選んでください。（1つだけ）

〔全体〕



〔文系・理工系別〕



## 82.7%の学生が就労していると回答

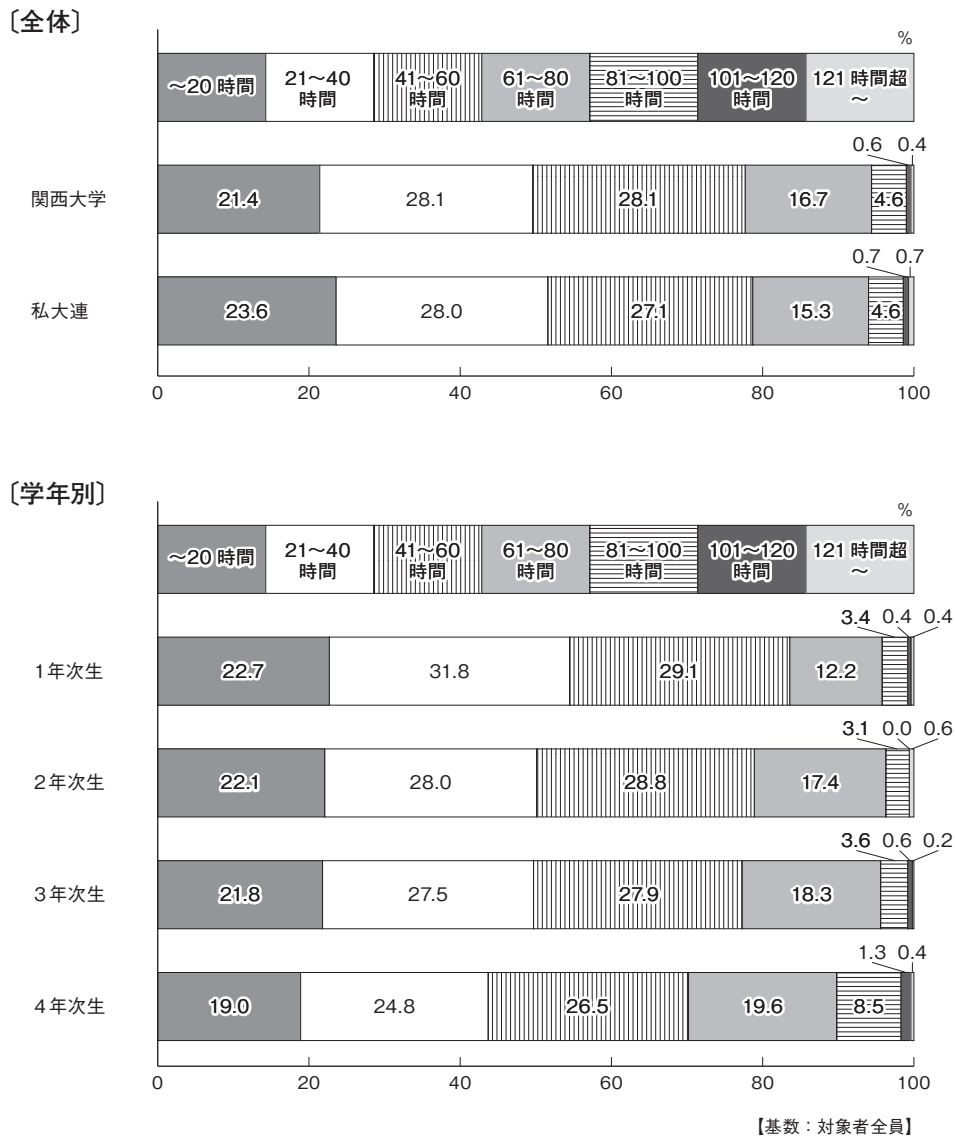
アルバイトを「常時している」、「時々している」、「定職を持っている」と回答した学生の割合は、本学が82.7%、全国平均が76.9%であり、全国平均を5.8ポイント上回った。また、「これからしようと思っている」と回答した学生の割合は、本学が13.4%、全国平均が17.0%となっており、本学の96.1%、全国平均の93.9%が就労について興味、関心を持っていることがわかった。

文系と理工系を比較すると、「常時している」と回答した学生は、文系が53.5%、理工系が46.9%となっており、文系の方が6.6ポイント高い結果となった。

大学としては、学生の多数が就労について興味、関心を抱いている上記の結果に鑑み、アルバイト就労上のトラブルやブラックバイトに関する問題への啓発活動を、継続して取り組んでいく必要があるだろう。

# 就労時間数

問22-② 1カ月の平均就労時間を記入してください。



## 平均就労時間「21～40時間」の割合が増加

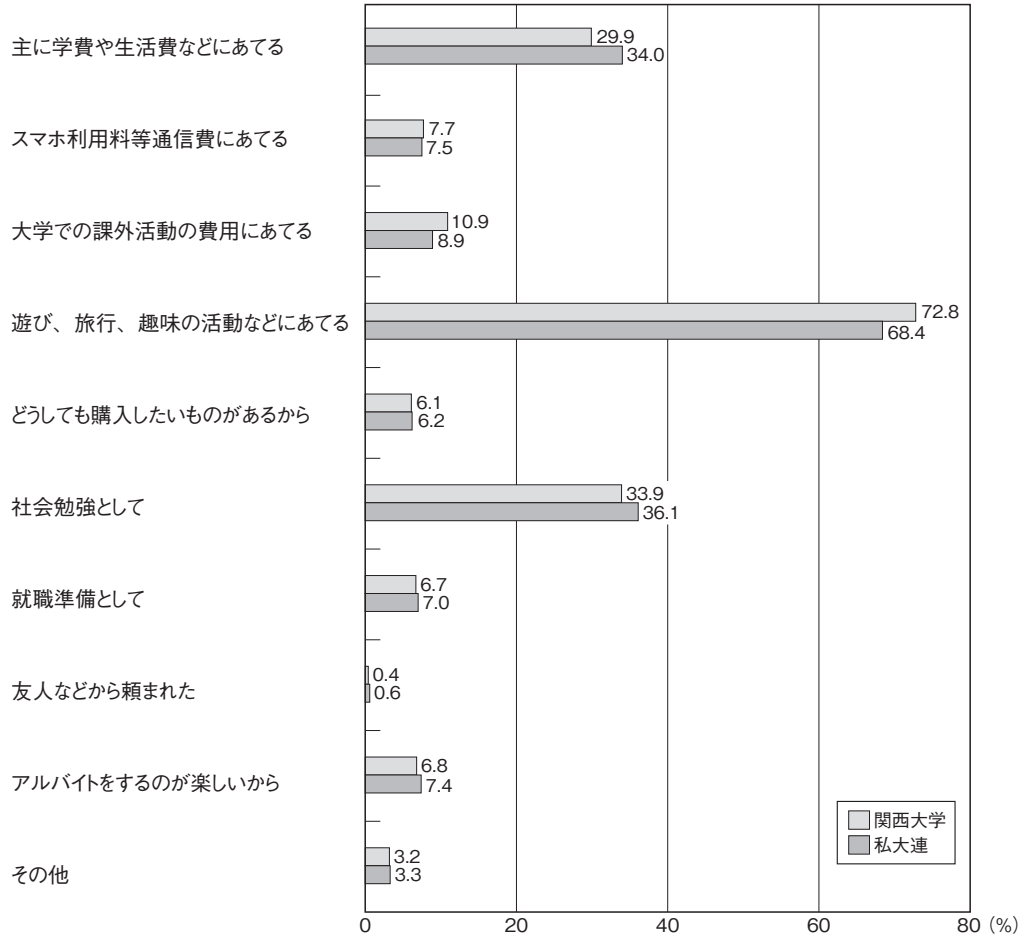
1カ月の平均就労時間について、「21～40時間」と回答した学生の割合は、「41～60時間」と回答した学生の割合と並んで28.1%となり、前回調査（2017年度）と比較して3.7ポイント増加した。

また、学年別に見ると、「81～100時間」、「101～120時間」、「121時間超～」と回答した学生の割合は、1年次生が4.2%であるのに対し、4年次生は10.2%と6.0ポイント高い結果となっており、前回調査（2017年度）に引き続き、学年が経過するとともにアルバイトに費やす時間が増加していることが分かった。

# アルバイトをする理由

問23

現在アルバイトをしている、またはこれから始められる方にうかがいます。アルバイトをする動機・理由は何ですか。(2つまで)



【基数：就労している人、これからしようと思っている人】

## 「社会勉強として」と回答する学生の割合が微増

アルバイトをする理由のうち、最も割合が高かったのは、「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」であり、本学が72.8%、全国平均が68.4%であった。次いで、「社会勉強として」と回答した学生の割合が、本学が33.9%、全国平均が36.1%という結果となり、全国平均に比べて2.2ポイント下回る結果となったものの、前回調査（2017年度）と比較して微増していることがわかった。

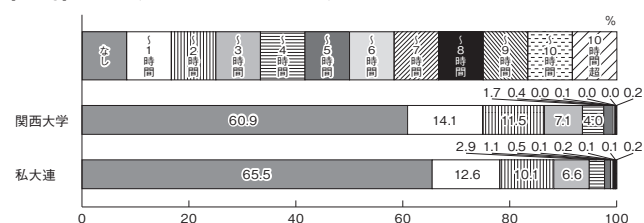
また、「主に学費や生活費などにあてる」と回答した学生の割合を住居別クロス集計表で見ると、住居形態が「自宅」の学生は23.4%、「自宅外」の学生は55.2%となっており、前回調査（2017年度）同様、住居形態とアルバイトをする理由に相関関係があることが分かった。

# 生活時間

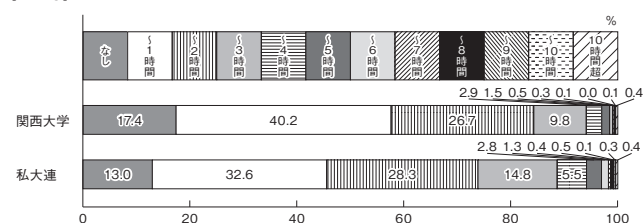
あなたの平均的な1日あたりの生活時間（1時間単位）についてお答えください。

- 問24-①** 授業
- 問24-②** 図書館・コンピュータ室等での自習
- 問24-③** 課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）
- 問24-④** 正課外（エクステンション）講座
- 問24-⑤** キャンパス滞在時間（①+②+③+④+α）
- 問24-⑥** 学外の講座や各種学校
- 問24-⑦** 通学時間
- 問24-⑧** 自宅での自習時間
- 問24-⑨** 1科目あたりの予習・復習時間
- 問24-⑩** スマホやPC、ゲーム等の使用時間（メールやSNS含む）
- 問24-⑪** 睡眠時間
- 問24-⑫** 就寝時刻

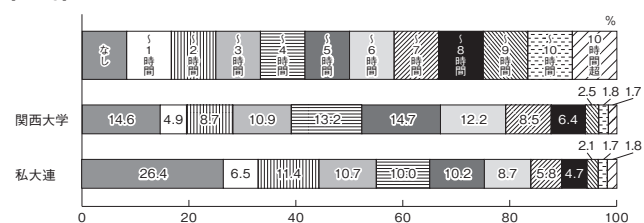
【Q24-③】 課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）



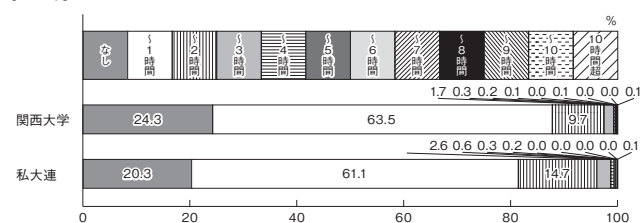
【Q24-⑧】 自宅での自習時間



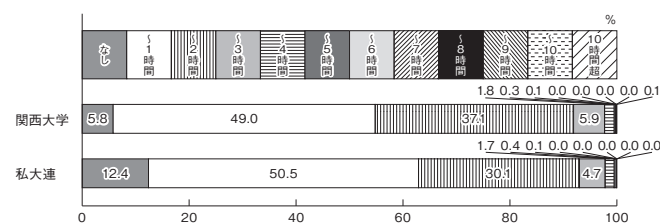
【Q24-⑤】 上記も含めたキャンパス滞在時間



【Q24-⑨】 1科目あたりの予習・復習時間



【Q24-⑦】 通学時間



## 「キャンパス滞在時間」が大幅に減少

本設問では、大学生の1日あたりの生活時間について知ることができる。前回調査（2017年度）と比較すると、③「課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）」、⑤「キャンパス滞在時間（①+②+③+④+α）」、⑦「通学時間」が減少する結果となった。これは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、オンライン授業が導入され、キャンパス外でも授業に出席することが可能となったことやキャンパス内での課外活動に一部制限がかかったことにより、キャンパスへの来学の必要性が低くなったことが要因と考えられる。

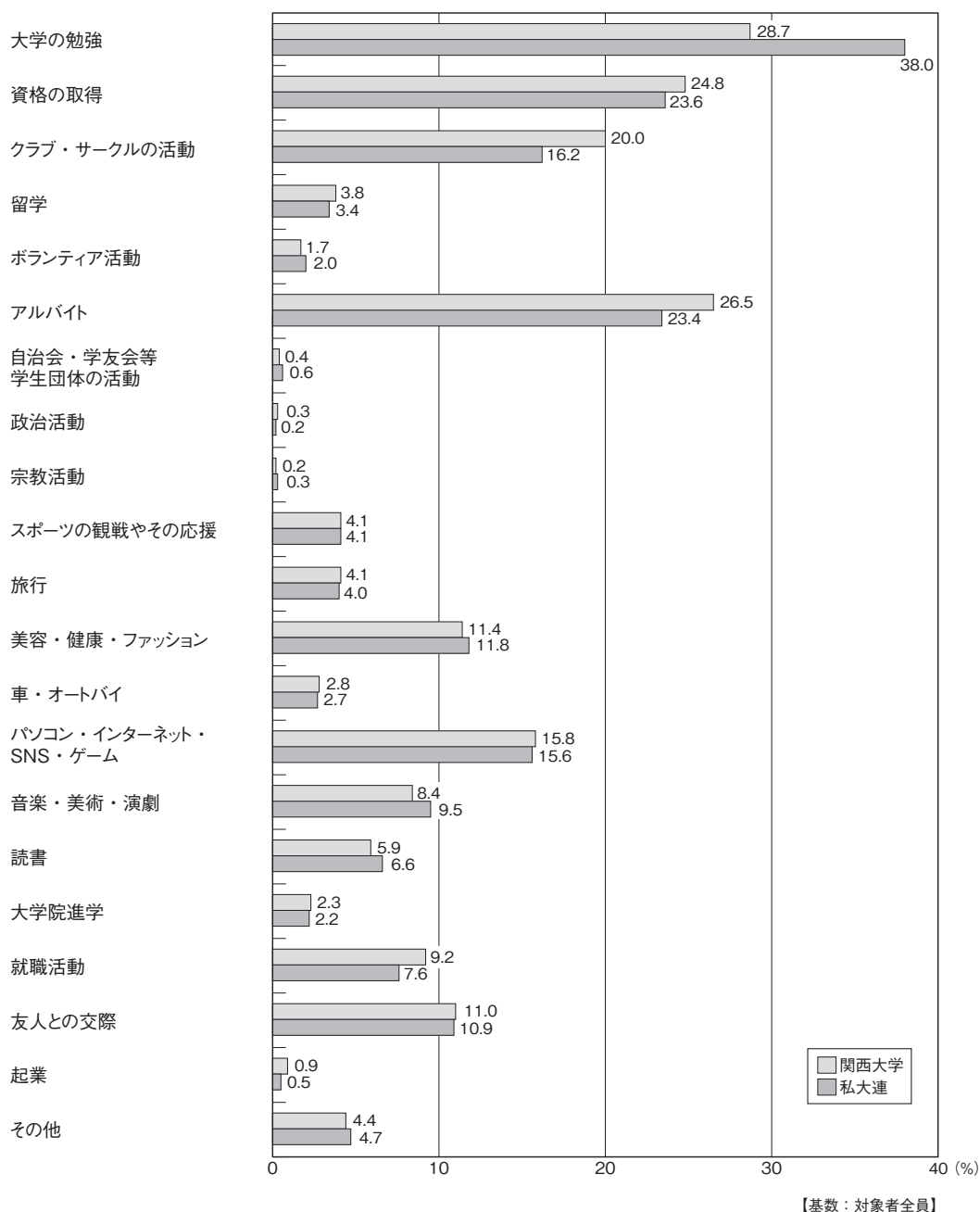
一方、⑧「自宅での自習時間」、⑨「1科目あたりの予習・復習時間」については、前回調査（2017年度）よりも増加し、オンライン授業の導入に伴い、学生が個々人で自習に取り組む時間が増加したことがうかがえる結果となった。

これらの回答結果からも、新型コロナウイルス感染症が学生それぞれの生活時間において影響を及ぼしたといえるだろう。



# 興味・関心事

問25 現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。(2つまで)



## 「大学の勉強」への興味・関心度合いは、全国平均を下回る

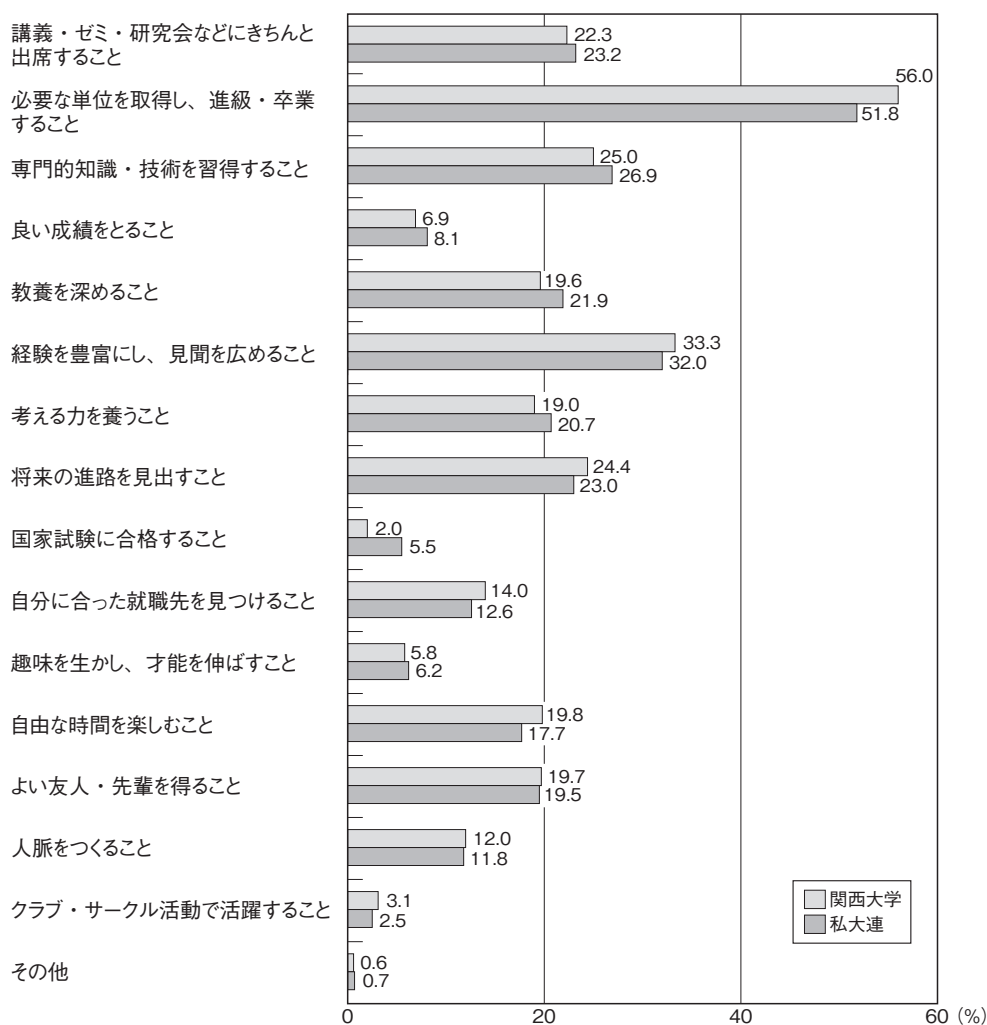
本学と全国平均の回答を比較すると、最もポイントの差がついたのが「大学の勉強」であった。本学が28.7%に対して、全国平均は38.0%と9.3ポイント差となり、本学学生の「大学の勉強」に対する興味・関心は全国平均よりも低いことが分かった。

一方、「クラブ・サークルの活動」については、本学が20.0%に対して、全国平均は16.2%と3.8ポイント上回り、「クラブ・サークルの活動」への興味・関心の度合いが全国平均よりも高いことがわかった。

上述の2項目に次いで差があった項目は「アルバイト」で、本学が26.5%に対し、全国平均23.4%と、本学学生の「アルバイト」への興味・関心の高さもうかがえる結果となった。

# 大学生活で重視していること

問26 大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか。(3つまで)



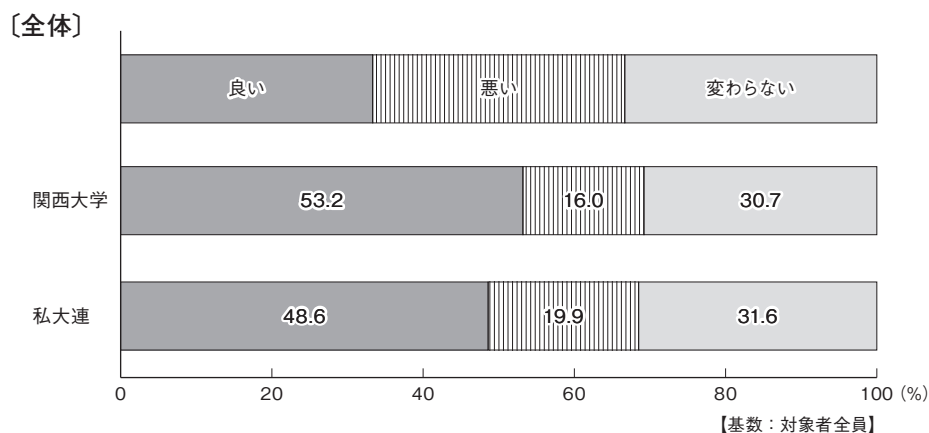
【基数：対象者全員】

## 「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が、全国平均を上回る

本学では、「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」と回答した学生が56.0%と最も高く、次いで「経験を豊富にし、見聞を広めること」が33.3%となり、いずれも全国平均を上回った。「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」は、全国平均を4.2ポイント上回り、本学学生が進級・卒業にむけて必要単位の取得を重視していることがうかがえる結果となった。

# 心身の状態

**問27** あなたは、大学生になってからの自分の心身の状態をどう感じていますか。



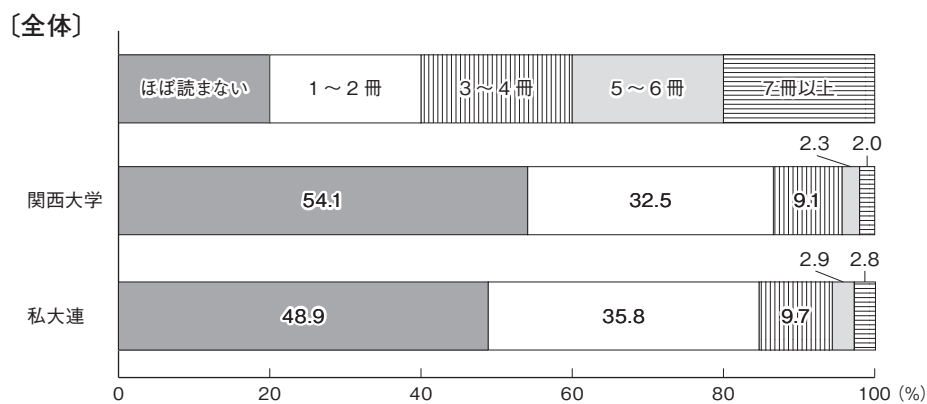
## 「良い」と回答した学生は「学生生活の充実度」も高い

自身の心身の状態について「良い」と回答した本学の学生の割合が53.2%となり、全国平均の48.6%を4.6ポイント上回った。

充実度でクロス集計表を見ると、「良い」と回答した学生の約8割が「充実している」または「まあまあ充実している」と回答したことに対し、「悪い」と回答した学生の約7割が「普通である」、「あまり充実していない」、「充実していない」のいずれかに回答しており、心身の状態と学生生活の充実度は一定の相関関係にあることがうかがえる結果となった。

# 読書

**問28** あなたは、1か月に何冊くらいの本（電子書籍を含む。雑誌、漫画は除く）を読みますか。



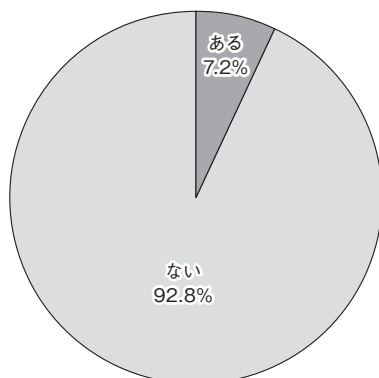
## 半数以上の学生が「本をほぼ読まない」と回答

1か月あたりの読書量について調査したところ、本学では「ほぼ読まない」と回答した学生の割合が54.1%となり、半数以上の学生が日常生活においてほぼ読書をしないということが明らかとなった。全国平均48.9%と比較しても、5.2ポイント上回っており、全国平均よりも本学学生の読書量が少ないことがうかがえる結果となった。

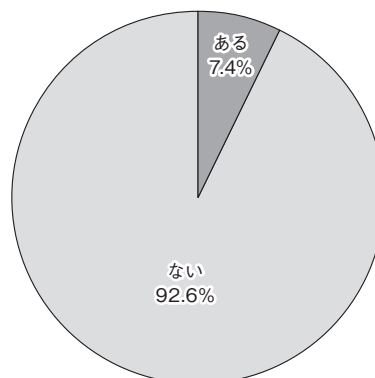
# SNSでのトラブル

問29 SNSでトラブルに巻き込まれたことはありますか。(一つだけ)

〔関西大学〕



〔私大連〕



【基数：対象者全員】

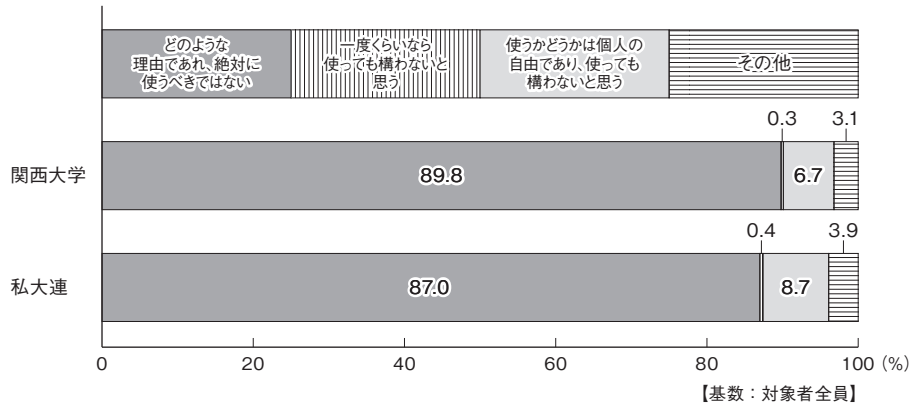
## SNSでのトラブル経験がある学生が僅かながらに存在

SNSでトラブルに巻き込まれたことが「ある」と回答した学生は、本学では7.2%となり、全国平均7.4%とほぼ同様の結果となった。

全体の7.2%ではあるが、SNSでのトラブルに巻き込まれたことがある学生が存在している状況を踏まえ、今後も大学として啓発をより一層行っていく必要があるだろう。

# 薬物使用に関する意識

**問30** あなたは薬物（大麻など）の使用について、どのように考えていますか。（1つだけ）



## 薬物の使用を「個人の自由」と捉える学生が僅かながら微増

「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と回答した学生が、本学で89.8%、全国平均では87.0%となった。

一方で、「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」と回答した学生の割合が本学では6.7%、全国平均では8.7%となり、前回調査（2017年度）と比較して、本学が1.6ポイント、全国平均が0.6ポイント微増する結果となった。これは、本学を含む関西四大学において実施している「関西四大学薬物に関する意識調査」の結果と同様に、薬物を「個人の自由」と捉えている薬物に対する危機意識が低い学生が少なからず存在することがうかがえる結果となった。

# 大学に対する満足度

大学の次の内容について、満足度を教えてください。(1つだけ)

問31-① 教授陣

問31-② カリキュラムの構成

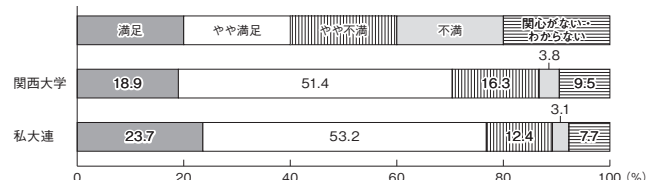
問31-③ 授業の内容

問31-④ セミなどの少人数教育

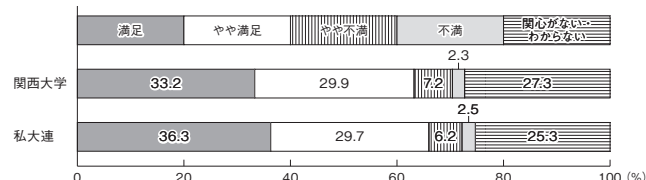
問31-⑤ 大学の施設・設備

問31-⑥ 授業等、正課教育全体

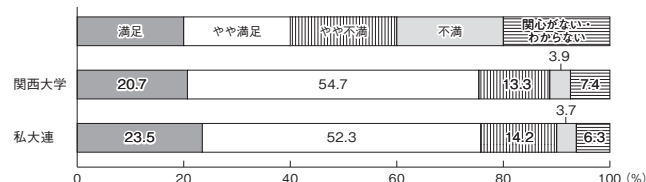
【Q31-①】 教授陣



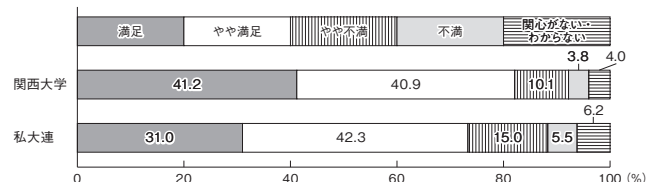
【Q31-④】 セミなどの少人数教育



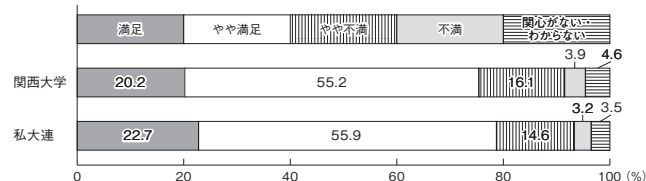
【Q31-②】 カリキュラムの構成



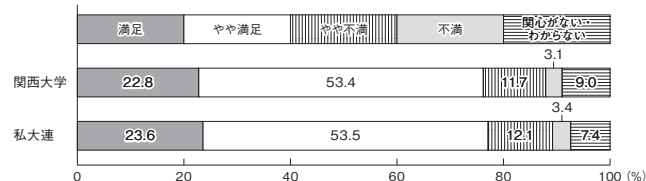
【Q31-⑤】 大学の施設・設備



【Q31-③】 授業の内容



【Q31-⑥】 授業等、正課教育全体



【基数：対象者全員】

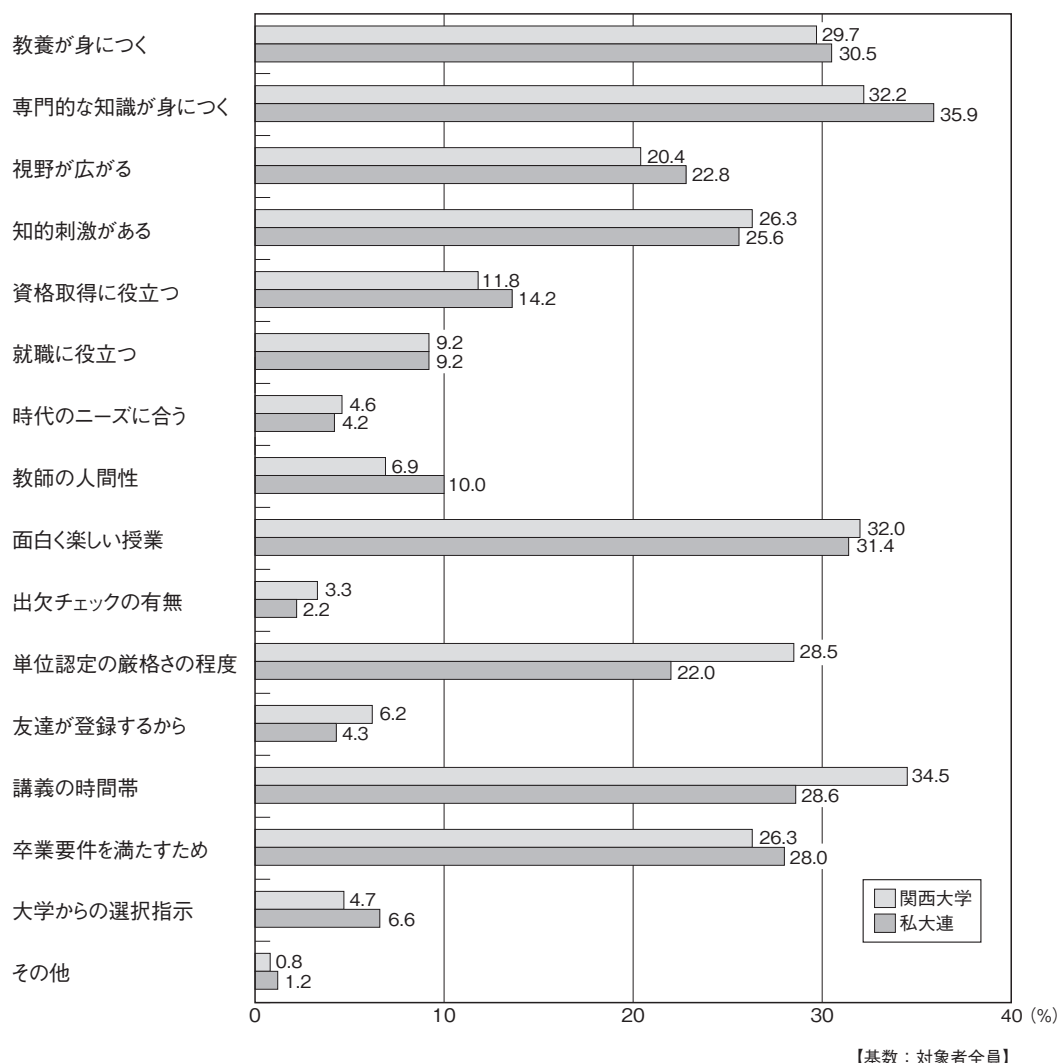
## 施設・設備の満足度が8割を超える

正課教育に関する満足度について、①「教授陣」②「カリキュラムの構成」③「授業の内容」④「ゼミなどの少人数教育」⑤「大学の施設・設備」⑥「授業等、正課教育全体」の6項目で調査した。本学の最も満足度（「満足」及び「やや満足」の合計値）が高かった項目は、⑤「大学の施設・設備」であり、その割合は82.1%と全国平均と比べて8.8ポイント上回る結果となった。

一方、①「教授陣」の項目については、「満足」または「やや満足」とした本学学生の割合は、70.3%であり、全国平均である76.9%から6.6ポイント下回り、本学の満足度において、最も低い結果となった。しかしながら、前回調査（2017年度）では、同項目の満足度が50.3%であったことから、今回の調査と比較すると20.0ポイント高くなっていることがわかった。本学ではこの結果を受けて、学生の満足度を高めるための継続的な施策を講じていく必要があるだろう。

## 履修登録の動機

問32 科目を履修登録する時に、重視する要素は何ですか。（3つまで）



## 7項目で全国平均を上回る

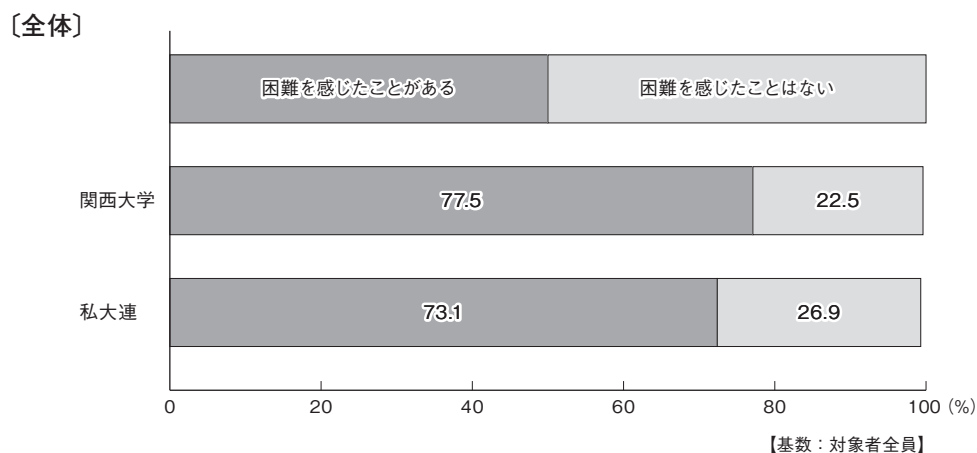
履修登録時に重視する要素を調査したところ、「知的刺激がある」、「時代のニーズに合う」、「面白く楽しい授業」、「出欠チェックの有無」、「単位認定の厳格さの程度」、「友達が登録するから」、「講義の時間帯」の項目で全国平均を上回る結果となった。

とりわけ、「知的刺激がある」、「面白く楽しい授業」、「講義の時間帯」は前回調査（2017年度）においても、全国平均を上回っており、本学学生は履修登録において、自身の予定を重要視しつつ、講義内容に対して知的好奇心を満たす科目を求めている傾向にあることが読み取れる結果となった。



# 講義の難易度

**問33** 大学入学後、受講した講義の内容で理解に困難を感じたことはありますか。



## 「困難を感じたことがある」と回答した学生が7割を超える

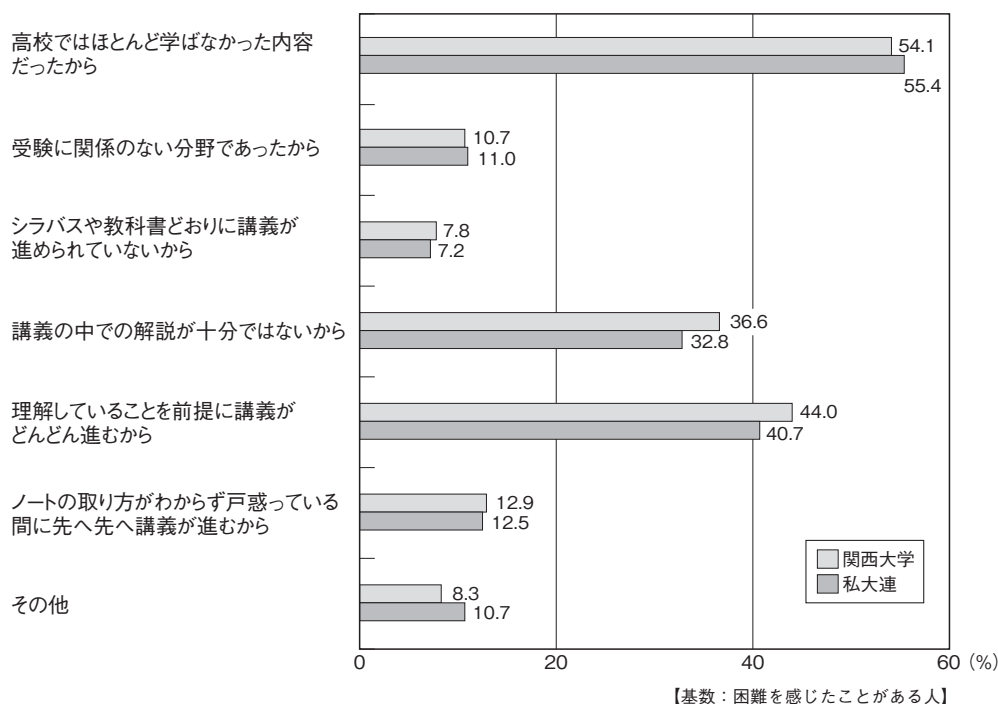
受講した講義の内容で理解に困難を感じたことがあるかという調査について、本学学生の77.5%が「困難を感じたことがある」と回答し、全国平均と比較すると4.4ポイント高い結果となった。

学部別にクロス集計表をしてみると、「困難を感じたことがある」と回答した学生は、総合情報学部が85.9%と最も高く、次いでシステム理工学部が85.1%、化学生命工学部が82.9%という結果となっており、専門性の高い分野において、講義が難しいと感じる学生が特に多いことが分かった。

# 講義を困難だと感じた理由

## 問34

前問33で「困難を感じたことがある」と答えた方にうかがいます。困難だと感じた理由に近いものを選んでください。(複数可)



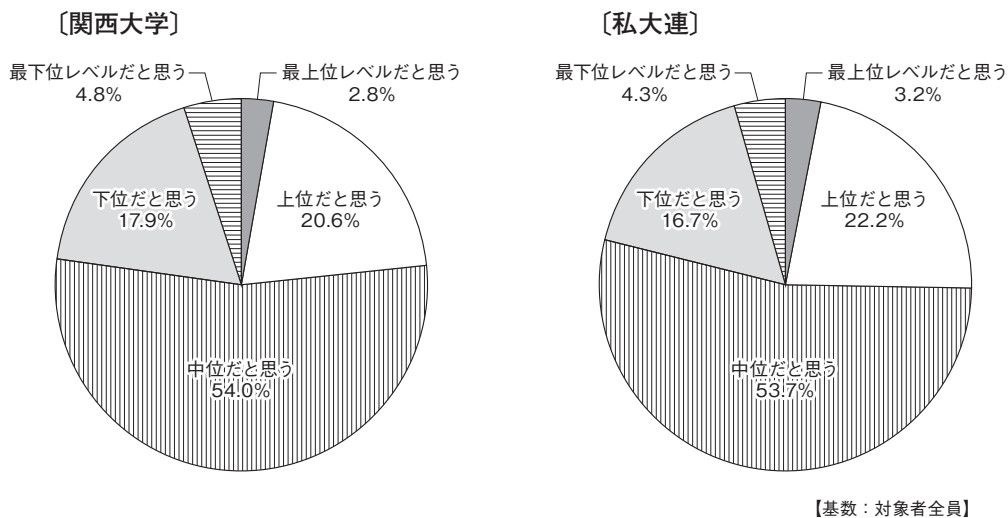
## 講義の内容が難しいと感じる学生が5割を超える

講義の理解が困難だと感じた理由について調査したところ、「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」が54.1%と最も高く、次いで「理解していることを前提に講義がどんどん進むから」が44.0%、「講義の中での解説が十分ではないから」が36.6%という結果となった。

経過学年別にクロス集計表を見ると、「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」と回答したのは1年次生が60.4%と最も高く、大学進学した1年次生が、大学の講義内容そのものに困難さを感じていることが分かった。

# 自分の成績評価

問35 あなたは大学での自分の成績をどう思いますか。(一つだけ)



## 「中位だと思う」が5割を超える

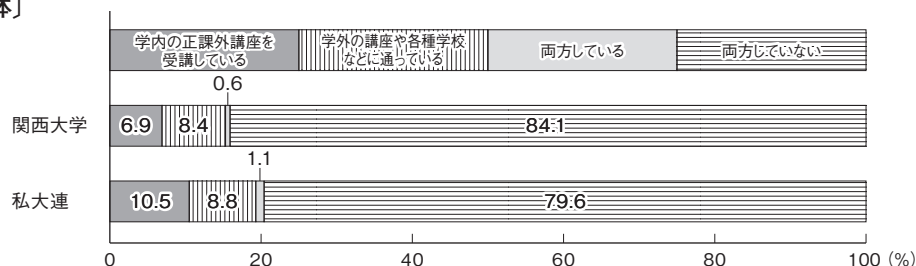
大学での自分の成績についてどう思うかについて調査したところ、「中位だと思う」が54.0%と最も高く、次いで「上位だと思う」が20.6%、「下位だと思う」が17.9%という結果となった。

# 正課外講座の受講状況

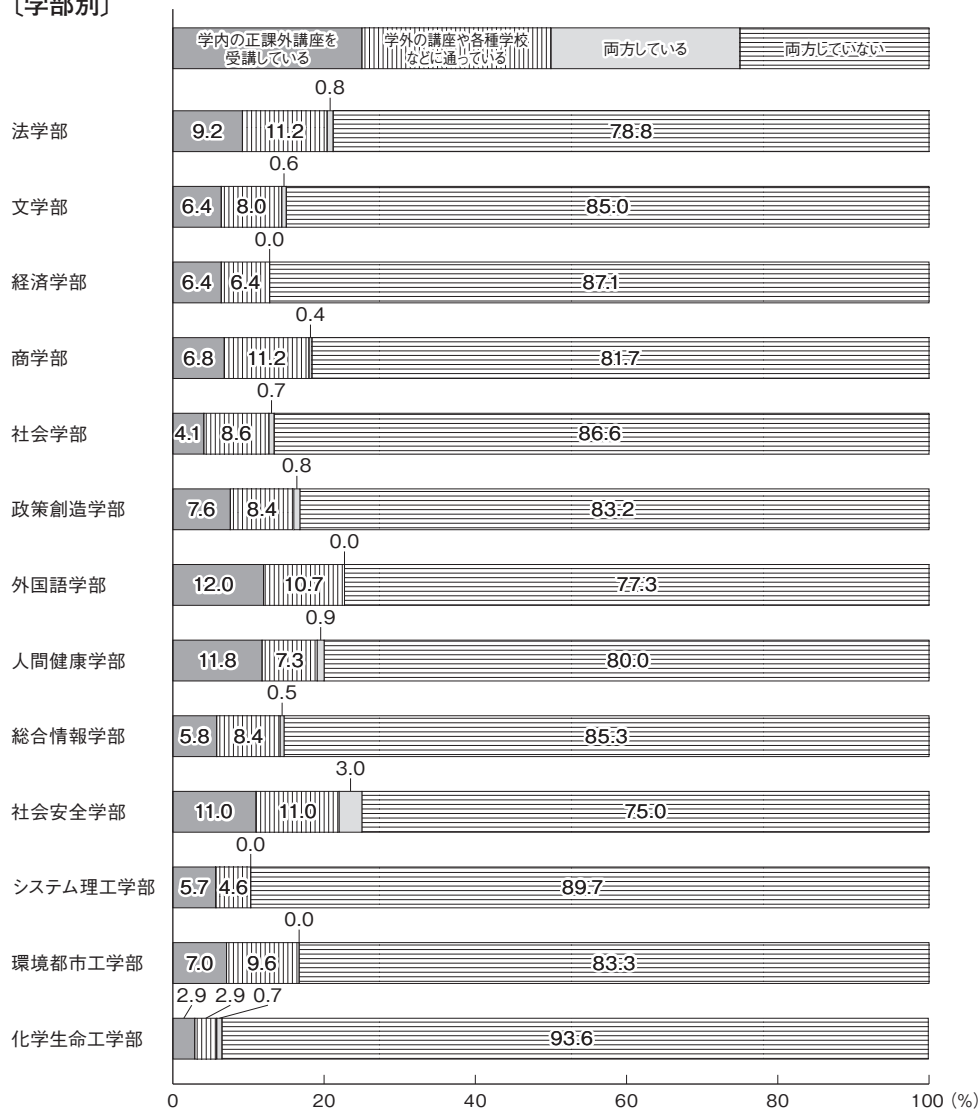
## 問36

現在、資格、技術取得、受験等のために、学内の正課外講座を受講したり、学外の各種学校などに通っていますか。(1つだけ)

### [全体]



### [学部別]



【基数：対象者全員】

## 正課外講座の受講は増加傾向に

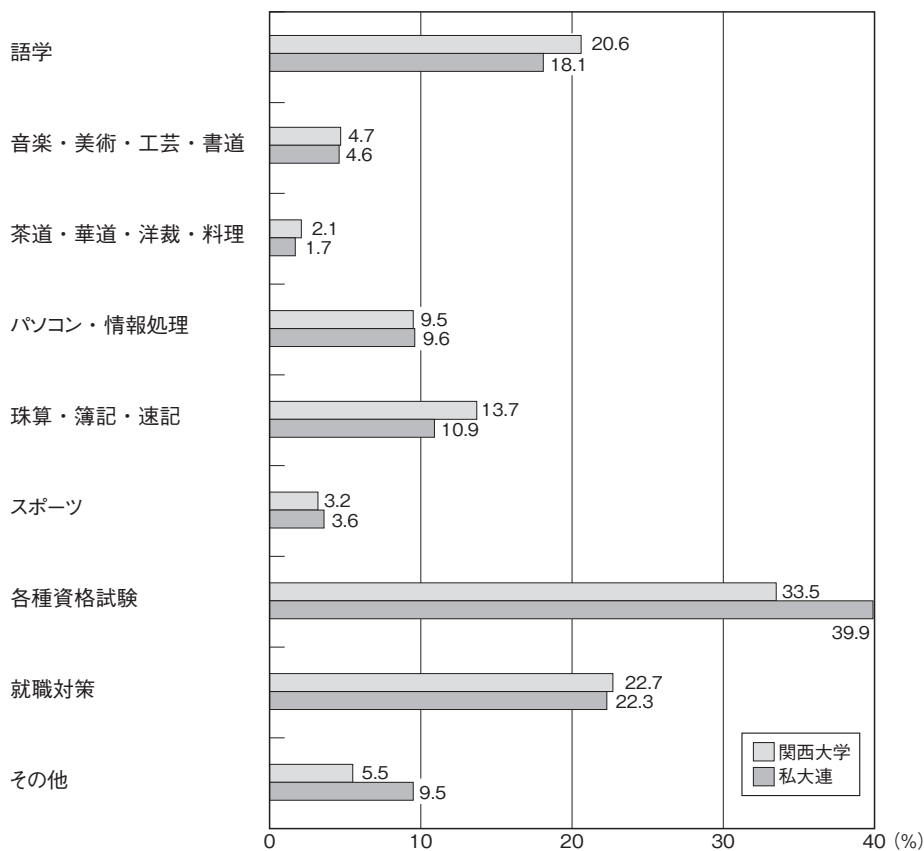
学内外における正課外講座を受講していると回答した学生の割合は、15.9%であり、前回調査（2017年度）の12.9%を3.0ポイント上回る結果となった。

また、学部別で見ると、正課外講座を受講している学生は社会安全学部が25.0%と最も高く、前回調査（2017年度）と比較して17.4ポイント増加しており、次いで外国語学部が22.7%という結果であった。

# 正課外講座

問37

学内の正課外講座や学外の各種学校に通っている方にうかがいます。それはどのような講座等ですか。  
(主なもの2つまで)



【基数：学内の正課外講座を受講している人、学外の講座や各種学校などに通っている人、両方している人】

## 「就職対策」と回答する学生の割合が減少

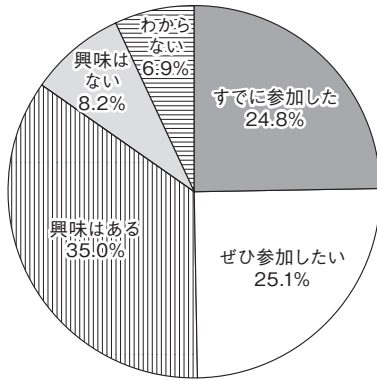
正課外講座の内容を調査したところ、「各種資格試験」と回答した学生の割合が33.5%、次いで「就職対策」と回答した学生の割合が22.7%という結果となった。前回調査（2017年度）で増加傾向であった「就職対策」は、9.5ポイント減少し、減少傾向であった「語学」は2.2ポイント増加した。

また、「各種資格試験」と回答した学生の割合を経過学年別クロス集計表で見ると、4年次生が47.8%と最も高く、卒業・就職を控えた本学学生の資格取得に対する意識の高さがうかがえる結果となった。

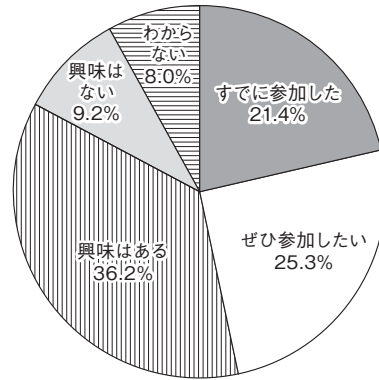
# インターンシップ

問38 インターンシップに参加したいと思いますか。(1つだけ)

〔関西大学〕



〔私大連〕



【基数：対象者全員】

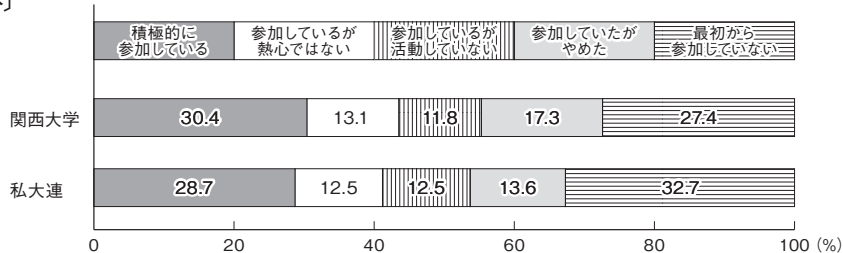
## インターンシップに対する本学学生の意欲増加

今回の調査で「すでに参加した」と回答した学生の割合は24.8%であり、前回調査（2017年度）の21.3%を3.5ポイント上回る結果となった。また、「ぜひ参加したい」、「興味はある」と回答した学生の割合も60.1%と微増ながら前回調査（2017年度）を0.9ポイント上回っており、インターンシップに対する本学学生の意欲が増加傾向にあることが分かった。

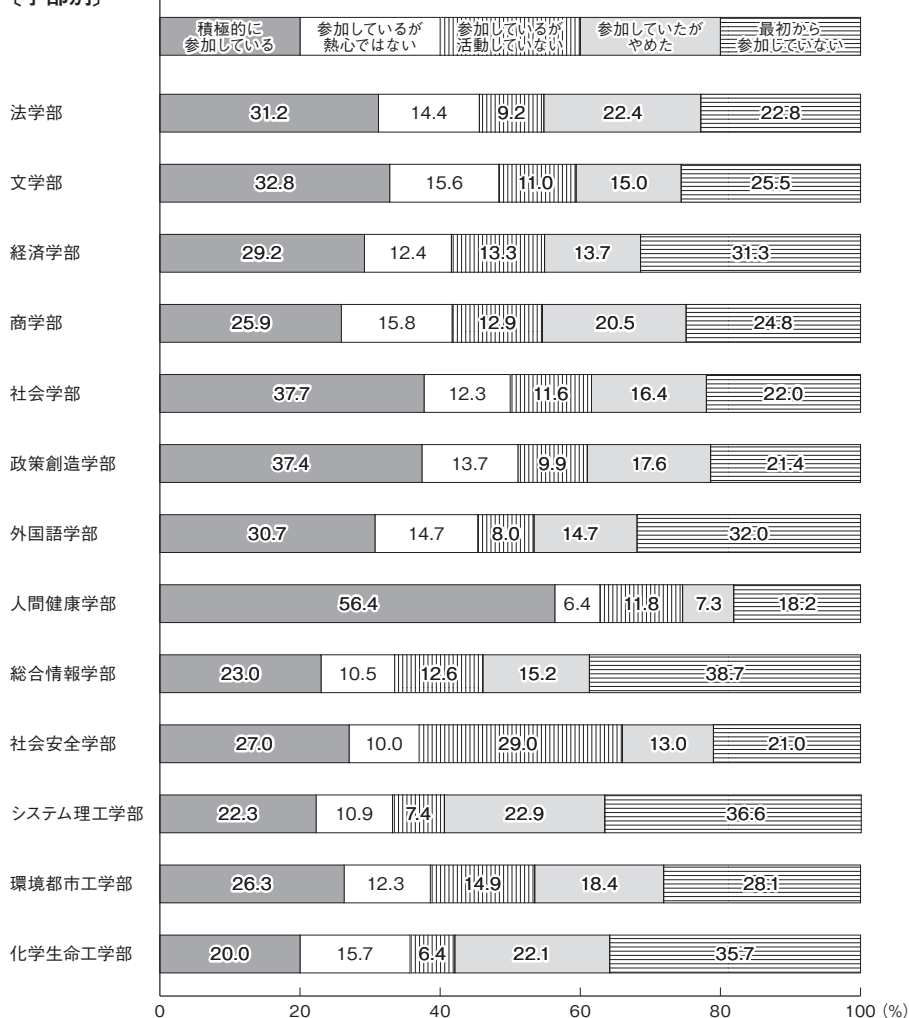
# 課外活動への参加状況

## 問39 課外活動（クラブ、サークル活動、ボランティア）に参加していますか。（1つだけ）

### 〔全体〕



### 〔学部別〕



【基数：対象者全員】

## 課外活動に参加する学生が減少

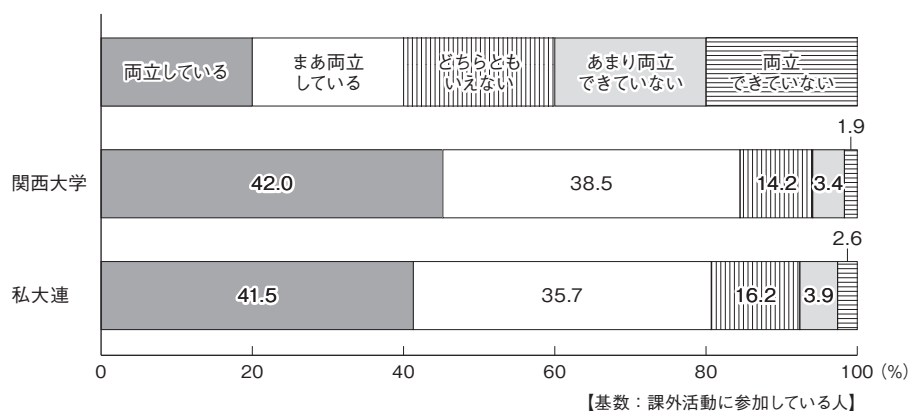
前回調査（2017年度）では課外活動に参加している学生の割合が本学で64.9%、全国平均で63.0%であったが、今回の調査では本学で55.3%、全国平均で53.7%となっている。「最初から参加していない」と回答した学生の割合は前回調査（2017年度）では2割程度であったが、今回の調査では3割程度に増加しており、課外活動に参加する学生が減少していることが分かった。

一方で、「積極的に参加している」と回答した学生を充実度別にクロス集計表で見ると、50.7%の学生が「充実している」と回答しており、相関関係が存在することが分かった。コロナ禍であっても、課外活動に参加する学生が増えるような取り組みを実施していく必要があるだろう。

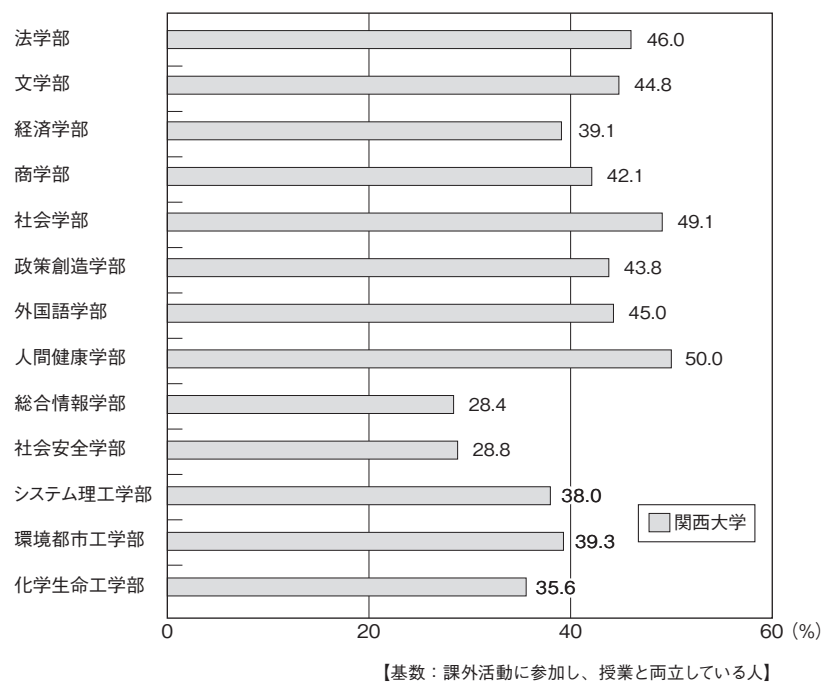
# 課外活動と授業の両立

**問40** 現在、課外活動に参加している方にうかがいます。課外活動と授業は両立していますか。(1つだけ)

[全体]



[両立していると回答した人の学部別割合]



## 課外活動と授業を両立している学生が8割以上

前回調査（2017年度）よりも「どちらともいえない」と回答した学生の割合が増加していることから、課外活動と授業の両立に不安を抱えている学生が一定数存在していることが分かった。

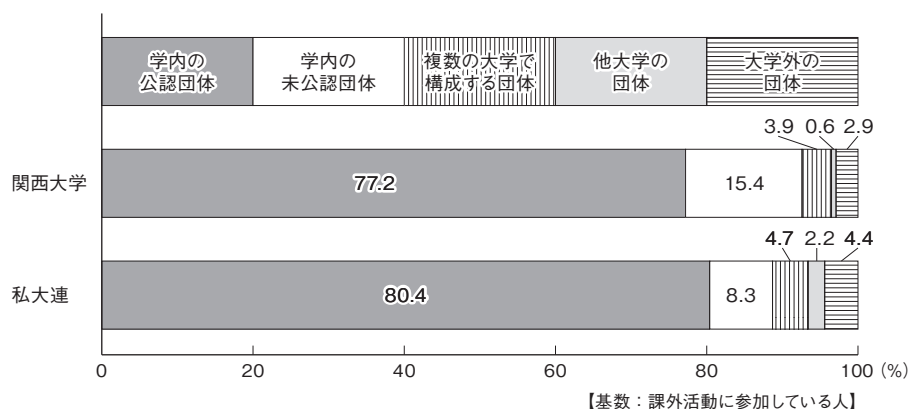
一方で、課外活動と授業の両立について「両立している」、「まあ両立している」と回答した学生の割合は、本学で80.5%、全国平均で77.2%となっており、全国平均を3.3ポイント上回る結果となった。全体で8割以上の学生が、学生の本分ともいえる学業と課外活動との両立ができていると感じていることが分かった。



# 課外活動のジャンル・活動内容

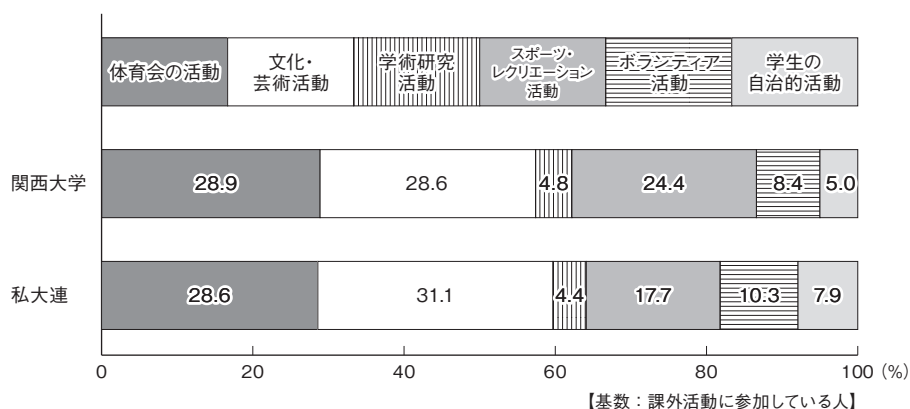
問41

現在、課外活動に参加している方にうかがいます。参加している課外活動団体は主として次のどれに該当しますか。(1つだけ)



問42

現在、課外活動に参加している方にうかがいます。参加している主なクラブ、サークルなどは次のどれですか。(1つだけ)



## 「体育会の活動」に参加する学生が減少し、「文化・芸術活動」に参加する学生の割合が増加

参加している課外活動団体について「学内の公認団体」と回答した学生は本学が77.2%、全国平均が80.4%となっており、8割程度の学生が大学公認団体に所属していることが分かった。

また、参加している主なクラブ、サークルを「体育会の活動」と回答した学生の割合は、本学が28.9%、全国平均が28.6%となっており、全国平均と同様の傾向であることがわかった。

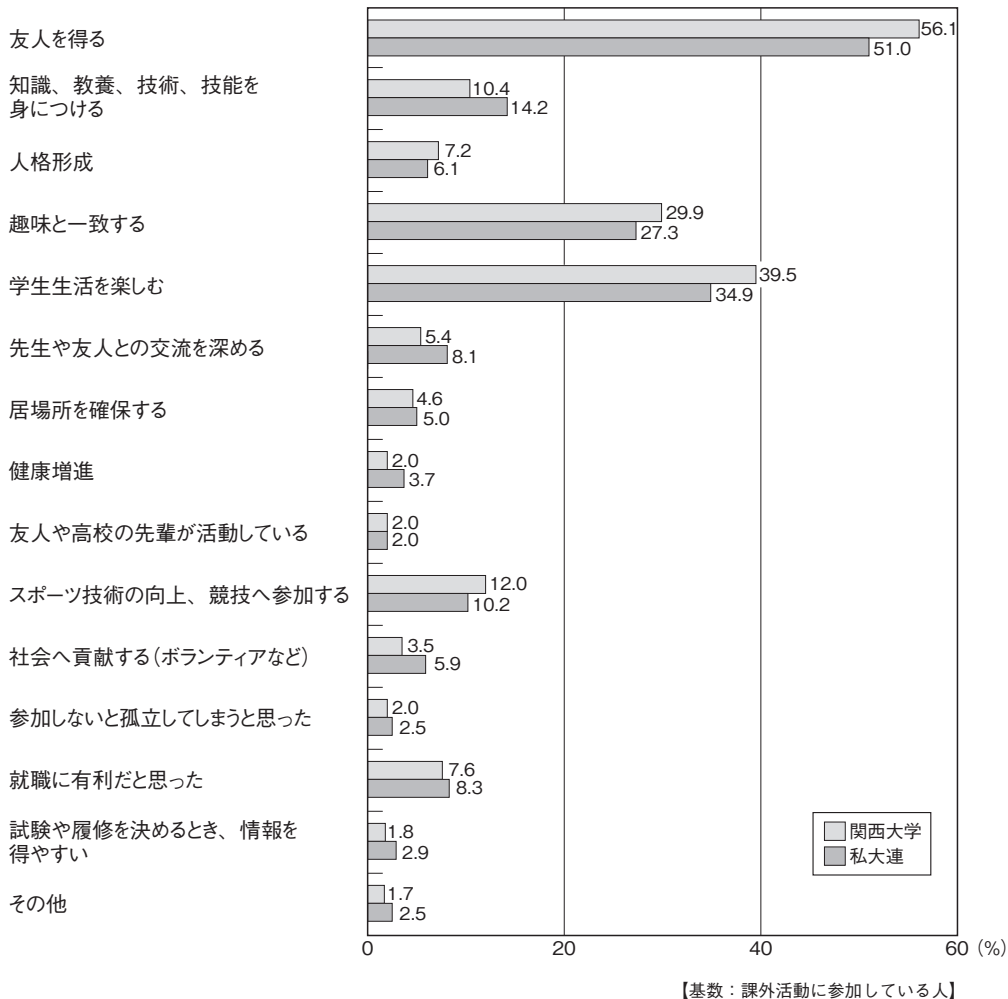
一方で、「文化・芸術活動」と回答した学生が、前回調査(2017年度)に比べ、本学で3.2%、全国平均で1.8%増加しており、全国平均においては、「体育会の活動」を上回る結果となった。

なお、「体育会の活動」と回答した学生を学部別にクロス集計表で見ると、人間健康学部が56.1%と非常に高い割合となっており、体育会活動への積極的参加が顕著に表れていることは特筆すべき点である。

# 課外活動の目的

## 問43

現在、課外活動に参加している方にうかがいます。課外活動に参加している理由、目的を選んでください。(2つまで)



### 「友人を得る」と回答した学生が5割以上

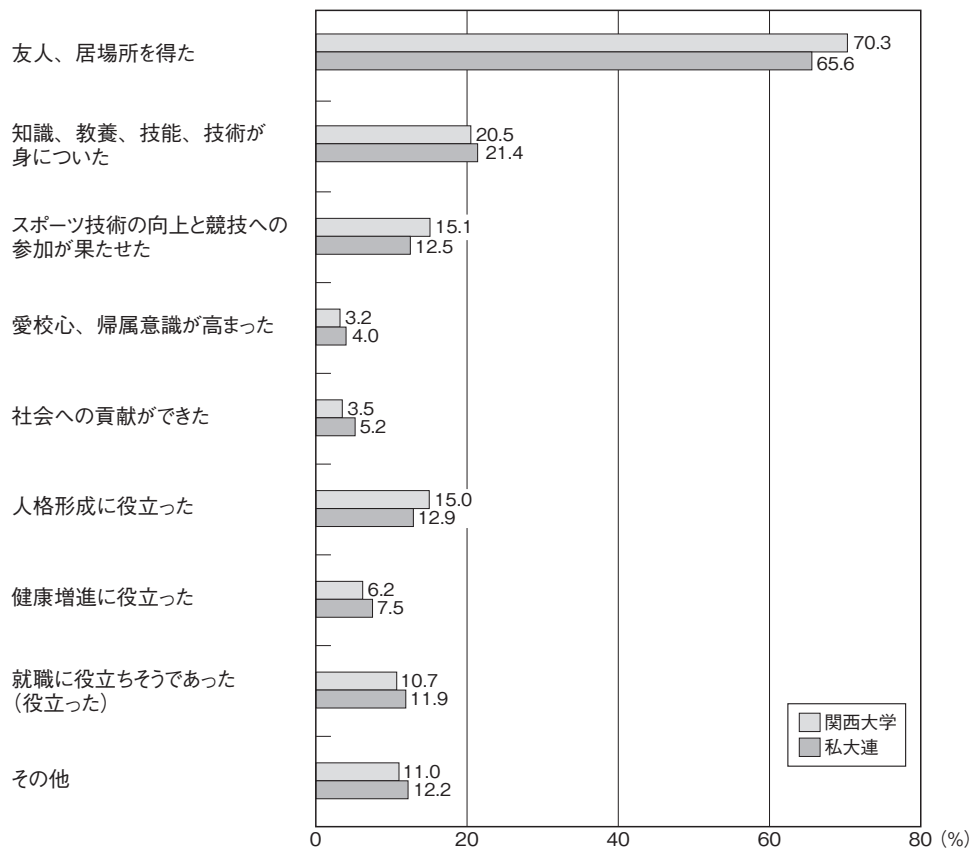
課外活動に参加する目的について「友人を得る」と回答した学生の割合は、本学が56.1%、全国平均が51.0%となっており、全国平均を5.1%上回り、前回調査(2017年度)に続き、最も高い結果となった。また、「学生生活を楽しむ」と回答した学生の割合は、本学が39.5%、全国平均が34.9%となっており、全国平均を4.6%上回る結果となった。

課外活動に参加する理由、目的の最上位項目が「友人を得る」という結果から、多くの学生が課外活動への参加によって友人を得ることに期待していることが伺える。

# 課外活動の満足度

問44

現在、課外活動に参加している方の満足度についてうかがいます。満足度の高いものを選んでください。(2つまで)



【基数：課外活動に参加している人】

## 「友人、居場所を得た」が7割以上

課外活動に関する満足度について、「友人、居場所を得た」と回答した学生の割合は、本学が70.3%、全国平均が65.6%となっており、全国平均を4.7ポイント上回り、圧倒的多数を占める結果となった。

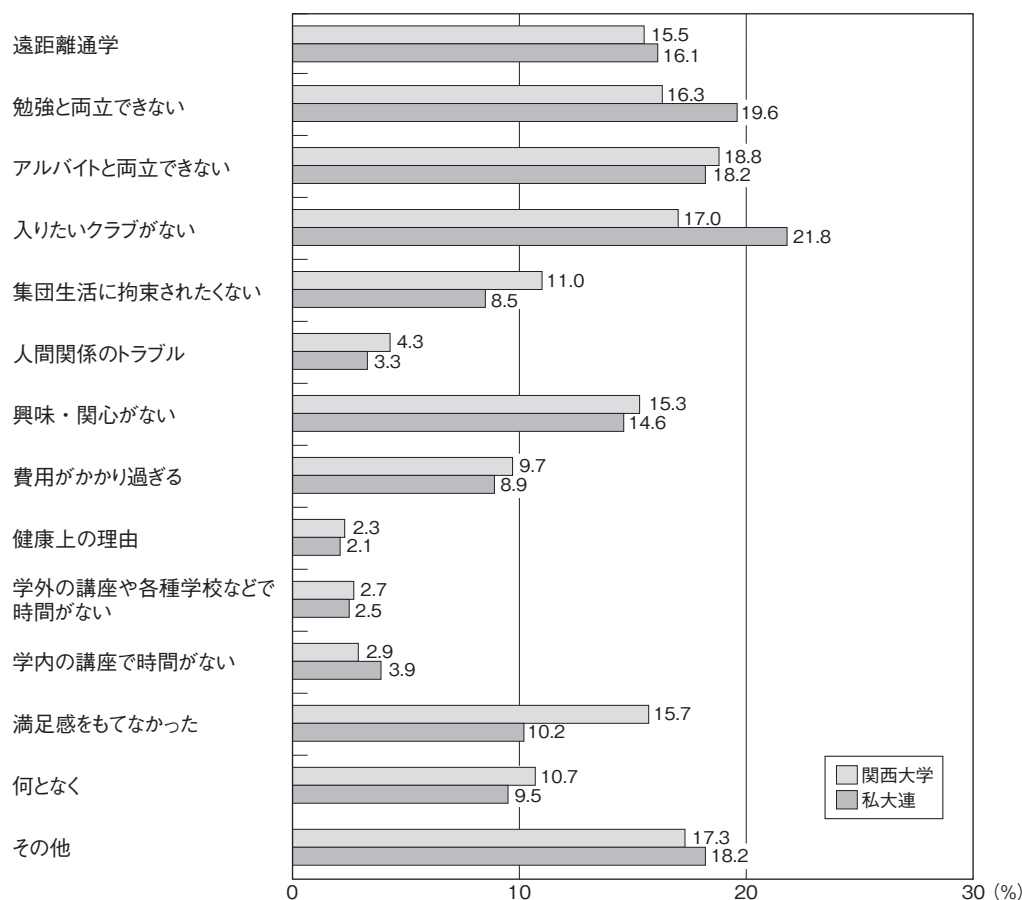
これは問43（課外活動の目的）において、最も高い割合が「友人を得る」という結果からも分かるように、課外活動を通じて、学生が友人、居場所を作ることで、大学生活を充実させていることを客観的に示す結果となった。

本学としては、多くの学生が課外活動に参加できるように、引き続きサポートしていく必要があるだろう。

# 課外活動に参加していない理由

## 問45

問39で、課外活動に「4. 参加していたがやめた」または「5. 最初から参加していない」と答えた方は、その理由を選んでください。（2つまで）



【基数：課外活動に参加していない人】

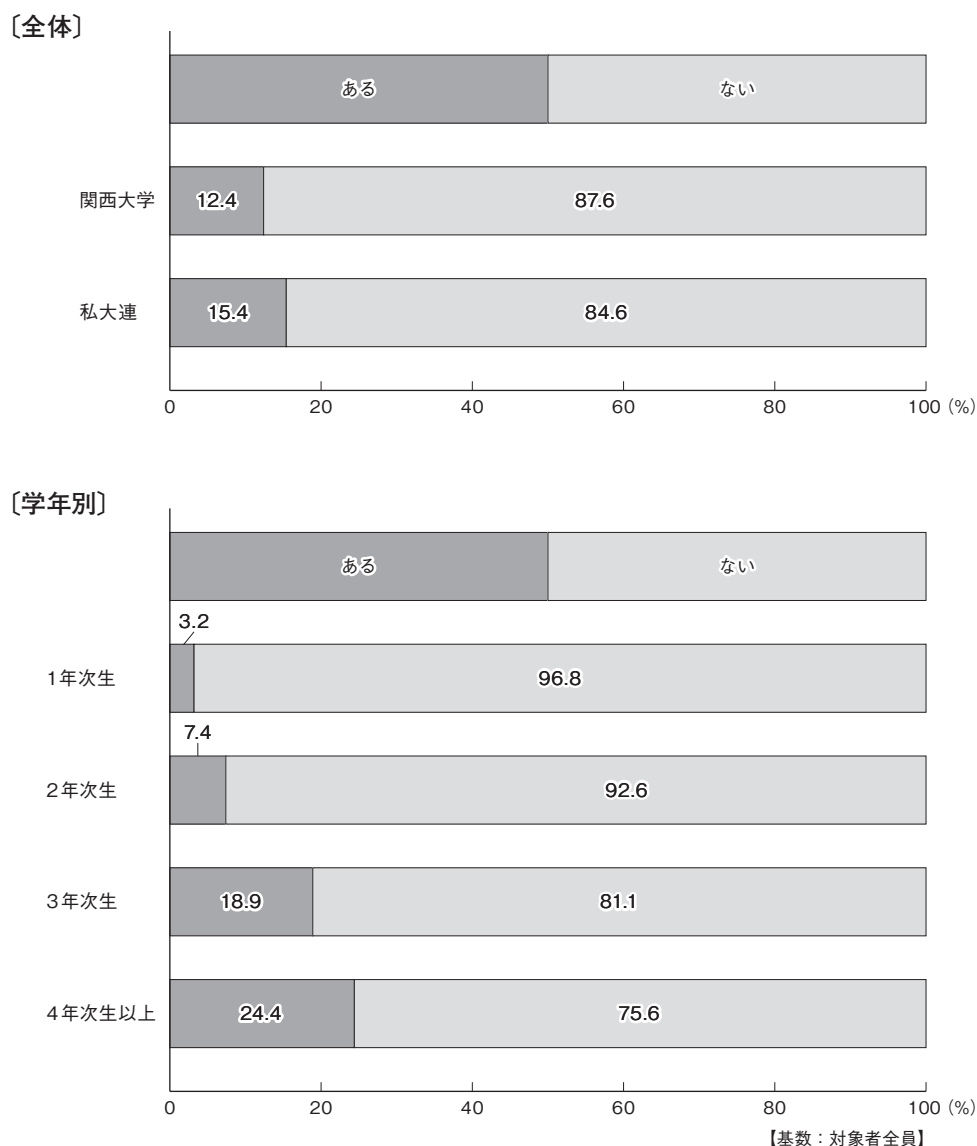
## 満足感をもてずに課外活動に参加していない学生が多い

課外活動に参加していない理由として「満足感をもてなかった」と回答した学生の割合は、本学が15.7%、全国平均が10.2%であり、全国平均を5.5ポイント上回る結果となった。「入りたいクラブがない」と回答した本学学生の割合は、全国平均よりも4.8ポイント下回っているものの、入部後に満足感をもてない学生が多かったということが伺える。

新入生歓迎オリエンテーション等の実施により、入りたいクラブを見つけることができたかと推察されるが、今後は入部後に満足感をもてるようにすることが課題であることが分かった。

# ボランティア活動への参加

問46 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。(1つだけ)



## 1～3年次生の参加率が減少傾向に

今回の調査でボランティア活動に参加したことが「ある」と回答した学生の割合は12.4%で、前回調査（2017年度）から6.9ポイント低い結果となった。全国平均でも前回調査（2017年度）から9.1ポイント低くなっており、全国的にボランティア活動参加者が減少していることが伺える。一方で、学部別のクロス集計表で見ると、文系学部に比べて、理工系学部は「ある」と回答した学生の減少幅が少ないまたは増加の傾向にあった。

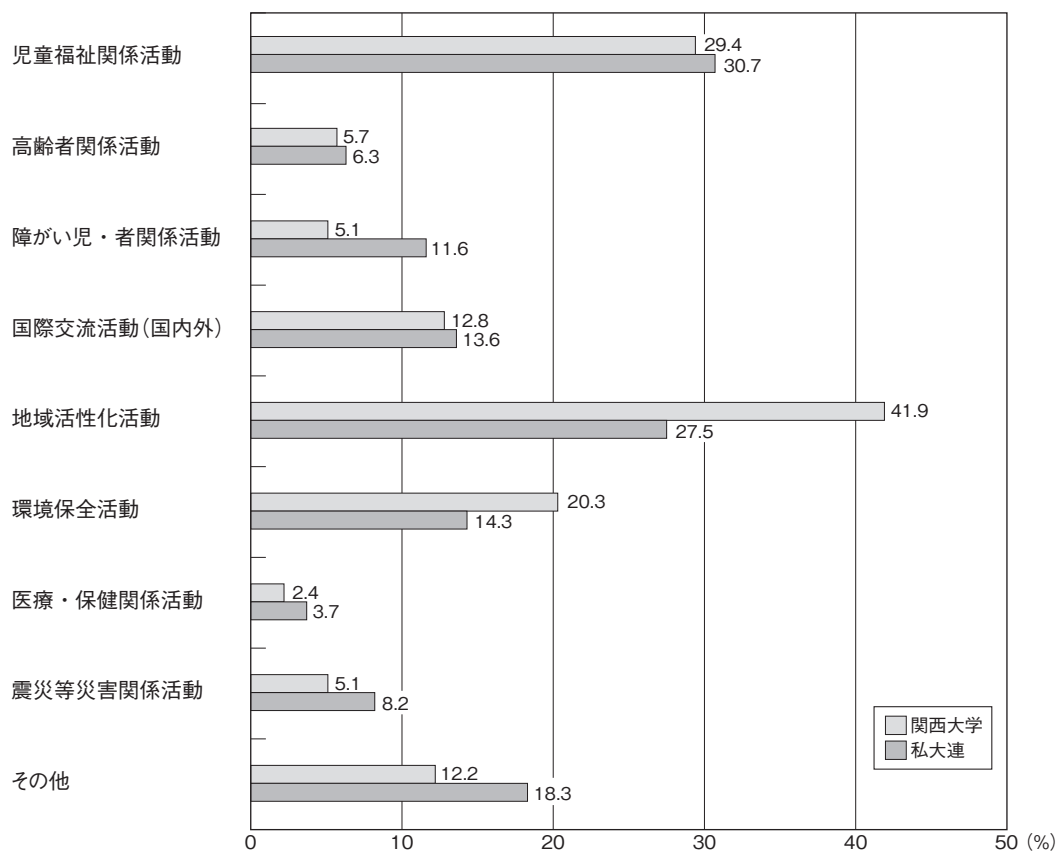
ボランティア活動に参加したことが「ある」と回答した学生の割合が減少した背景には、新型コロナウイルス感染拡大防止のために活動の制限・自粛があったことや、学外から大学に寄せられるボランティア募集の数が大幅に減少したことが大きく関与していると推測できる。

また、充実度別にクロス集計表を見てみると、「ある」と回答した学生のうち、学生生活が「充実している」と回答した学生が17.8%であるのに対し、「充実していない」と回答した学生は5.3%であった。このことから、ボランティア活動に参加したことがある学生の方が学生生活が「充実している」と感じる割合が高いと言える。

# ボランティア活動の内容

## 問47

前問46で「1. ある」と答えた方にうかがいます。どのようなボランティア活動に参加しましたか。  
(主なもの3つまで)



【基数：ボランティア活動に参加したことがある人】

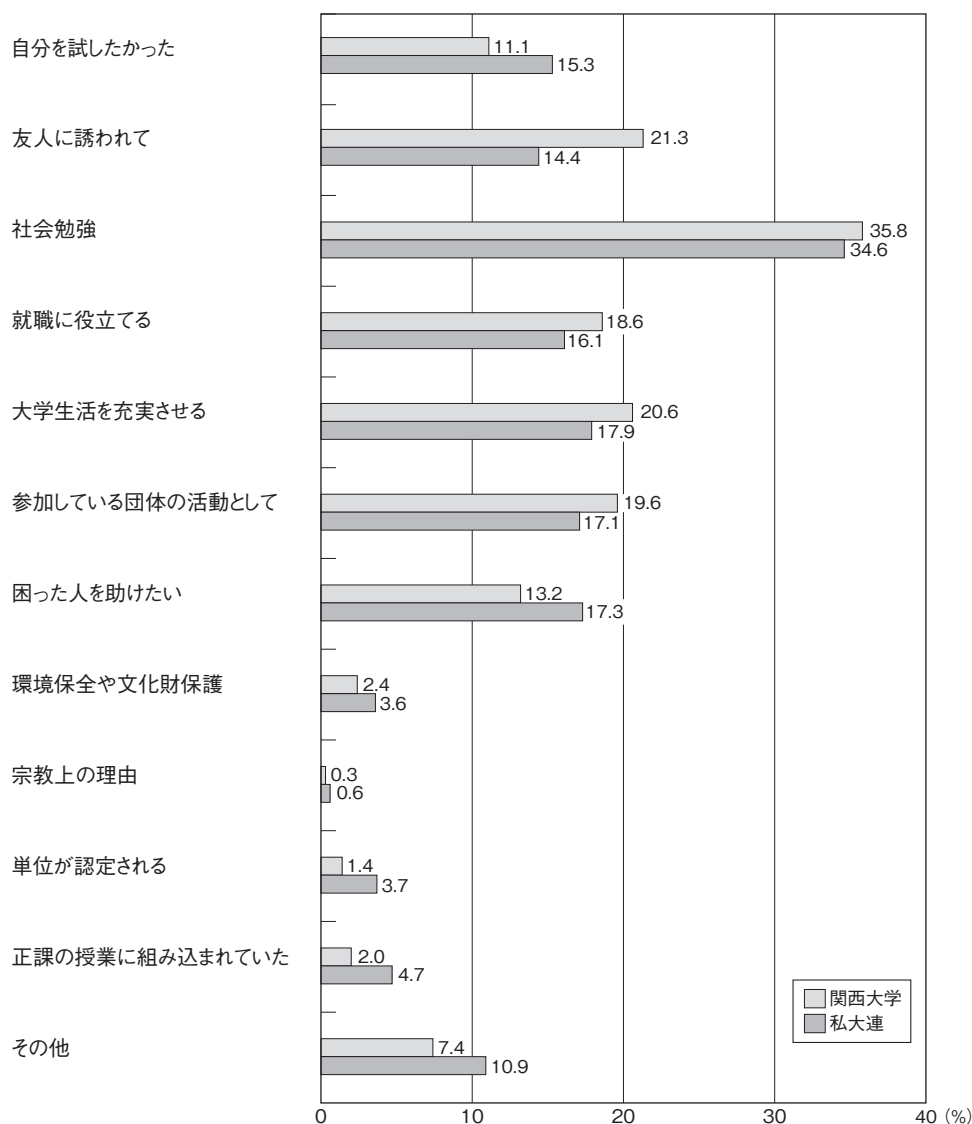
## 地域活性化活動への参加比率が高止まり

参加活動の内容では、「地域活性化活動」が41.9%と前回調査（2017年度）同様に最も割合が高かった。全国平均と比較しても14.4ポイント上回っており、本学において地域活性化に係るプログラムが他大学に比べて多く実施されていることの影響が伺える。

学年別にクロス集計表を見ると、最も参加比率の高い「地域活性化活動」と3番目に参加比率の高い「環境保全活動」については、3・4年次生で割合が大幅に増加していることから、1・2年次生での学びを経て両分野への興味が強まった可能性や、就職活動を念頭に社会勉強の機会を求めていること、ゼミや研究室での学びの中で両分野に触れる機会を得ていることが推察できる。

# ボランティア活動に参加した理由

**問48** 問46で「1. ある」と答えた方にうかがいます。ボランティア活動に参加した理由は何ですか。（2つまで）



【基数：ボランティア活動に参加したことがある人】

## ボランティア活動を社会勉強の機会に

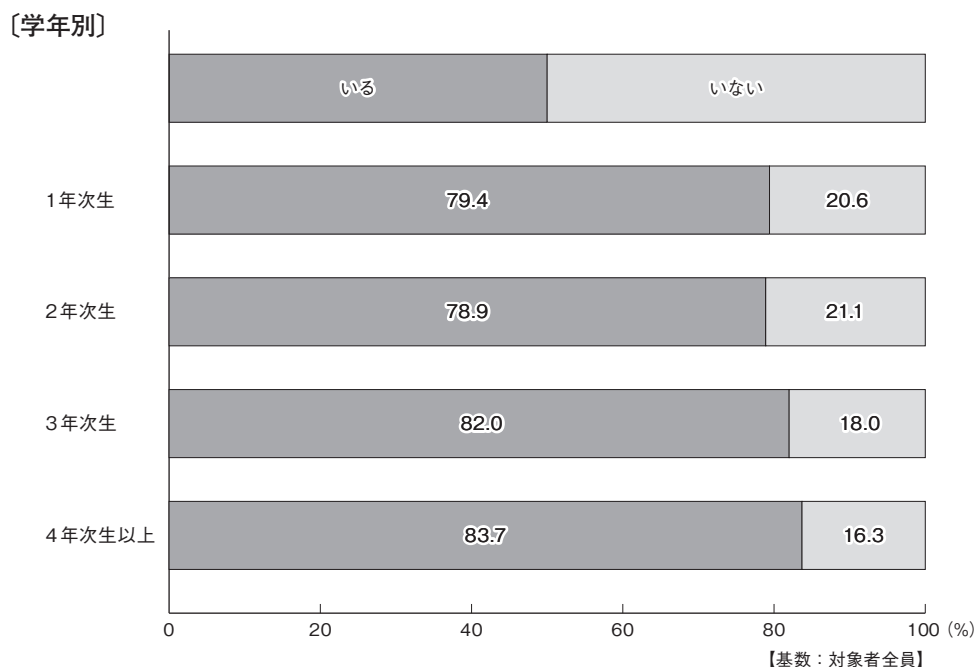
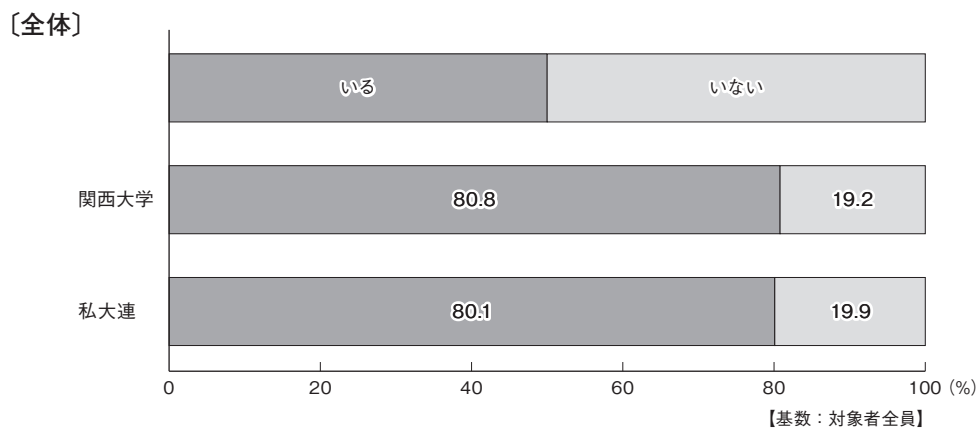
ボランティア活動に参加した理由の序列は前回調査（2017年度）と概ね同じであり、「社会勉強」が前回調査（2017年度）よりも2.5ポイント増加し、35.8%と最も高かった。この傾向は全国平均でも同様の動向が見られた。

また、前回調査（2017年度）から比較し、「就職に役立てる」が5.4ポイント高くなり、全ての項目の中で最も増加幅が大きかった。学年別のクロス集計表でも、下位年次から上位年次に進級するごとに割合が高くなることから、ボランティア活動を学生生活における社会勉強の機会と捉え、就職活動に結び付け、参加動機に繋がったものと推察できる。

「友人に誘われて」についても前回調査（2017年度）から1.7ポイント増加し、「社会勉強」に次いで参加した理由の上位となっており、友人からの誘いがボランティア活動に参加する良い動機づけになっていることがわかる。

# 友人

問49 現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。(1つだけ)



## 友人の存在が学生生活の充実度に影響

何でも話せる友人が「いる」と回答した学生が80.8%、「いない」と回答した学生が19.2%という結果になった。

何でも話せる友人が「いる」と回答した学生の割合は本学及び全国平均ともに8割を超え、学年別に見ると、4年次生が83.7%と最も高く、次いで3年次生が82.0%となっており、上位年次生になるにつれて高くなる傾向がある。

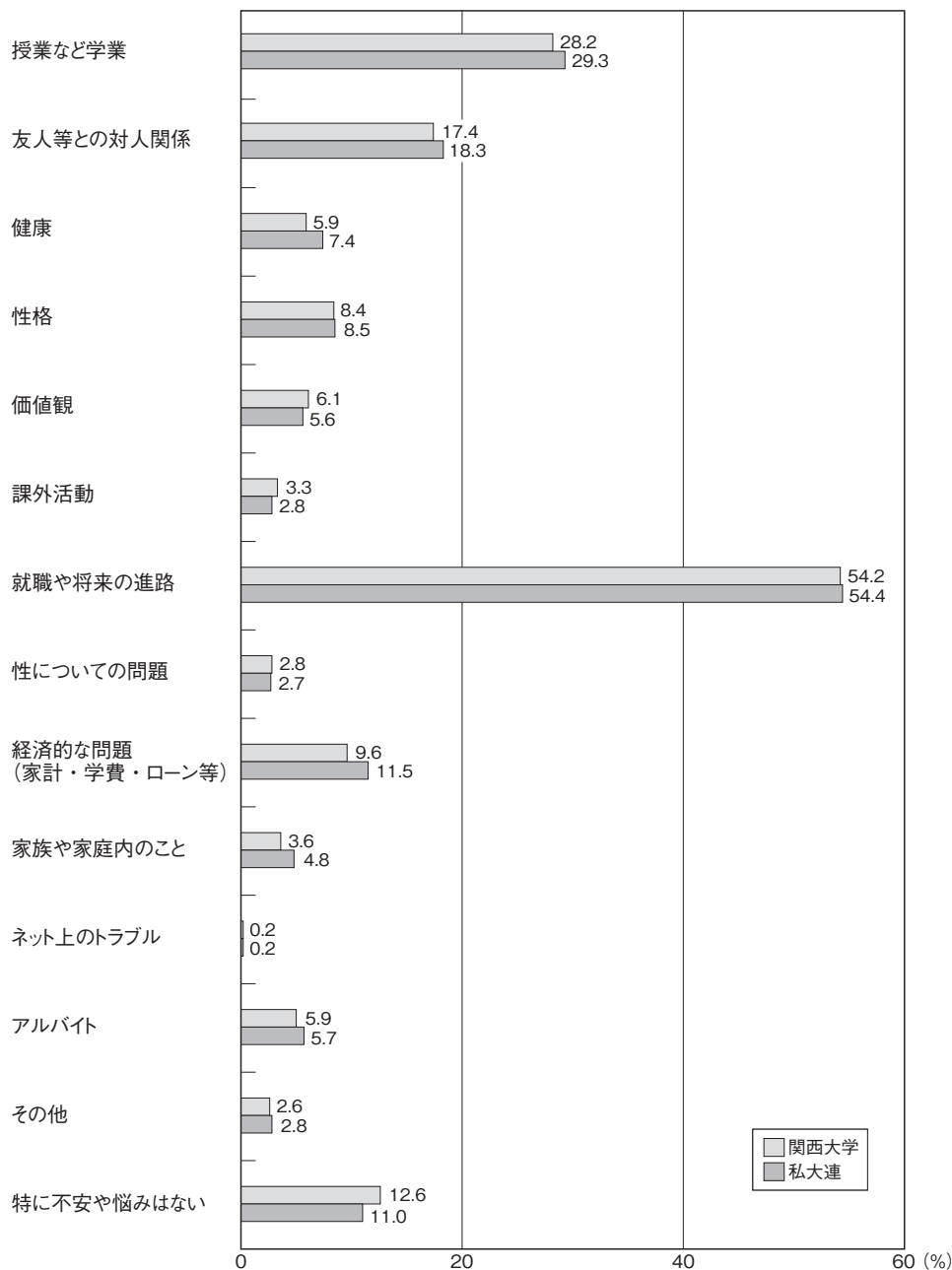
さらに、充実度別にクロス集計で見ると、何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は、学生生活が「充実している」が90.8%、「まあまあ充実している」が85.8%と充実度が高い傾向にある。一方で「いない」と回答した学生の充実度は低く、相談できる友人を得ることが学生生活の充実度に大きく影響することがわかった。



# 悩みの内容

問50

いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。(2つまで)



【基数：対象者全員】

## 将来の進路や学業に不安がある

「就職や将来の進路」に対して不安や悩みがあると回答した学生が54.2%と最も高く、次いで「授業など学業」と回答した学生が28.2%となっており、これは全国平均と比較してもほぼ同じ結果となった。

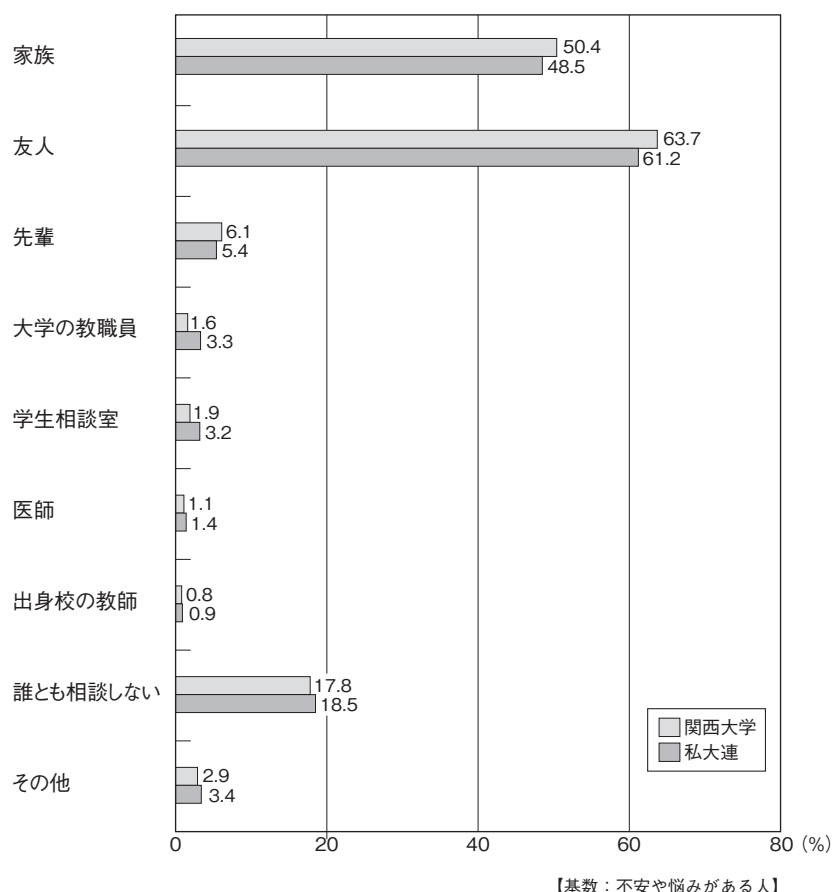
前回調査（2017年度）と比較すると、「就職や将来の進路」と回答した学生の割合は5.9ポイント上回り、「授業など学業」と回答した学生の割合もまた6.0ポイント上回った。一方で「友人等との対人関係」と回答した学生の割合は4.3ポイント下回る結果となった。

また、経過学年別にクロス集計で見ると、「就職や将来の進路」に対して不安や悩みがあると回答した学生は、3年次生が75.4%と最も高く、前回調査（2017年度）と同様に就職活動等を控え自身の進路に高い関心を持ち、思い悩む時期であることがうかがえる。

# 相談相手

## 問51

その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しようと思っていますか。主な相談相手を選んでください。(2つまで)



## 不安や悩みを友人や家族に相談

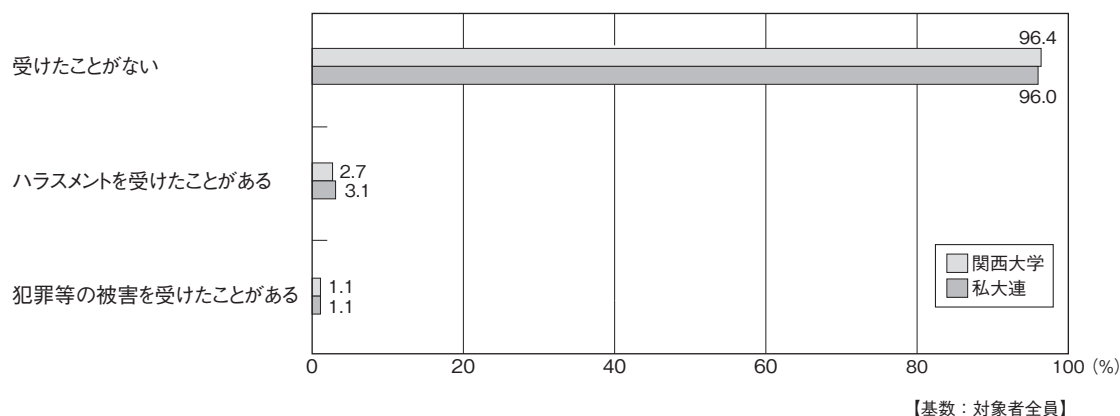
相談相手については「友人」と回答した学生の割合が63.7%と圧倒的に高く、「家族」が50.4%、次いで「先輩」が6.1%となっている。前回調査（2017年度）と比較すると、「友人」と回答した学生の割合は3.6ポイント下回り、「先輩」と回答した学生の割合も2.7ポイント下回るが、「家族」と回答した学生の割合は5.0ポイント上回る結果となった。

上位3つの相談相手「家族」、「友人」、「先輩」と充実度をクロス集計表で見ると、不安や悩みを「家族」、「友人」または「先輩」に相談している学生は学生生活における充実度が高い。一方で「誰とも相談しない」と回答した学生は充実度が低いことがわかった。また、課外活動への参加状況をクロス集計表で見ると、「課外活動に積極的に参加している」と回答した学生ほど、「友人」や「先輩」を身近な相談相手としている割合が高い傾向にある。

# ハラスメント

問52

あなたは大学入学後ハラスメント<いやがらせ>や犯罪等の被害を受けたと感じたことがありますか。  
(2つまで)



## ハラスメントを「受けたことがない」学生は9割以上

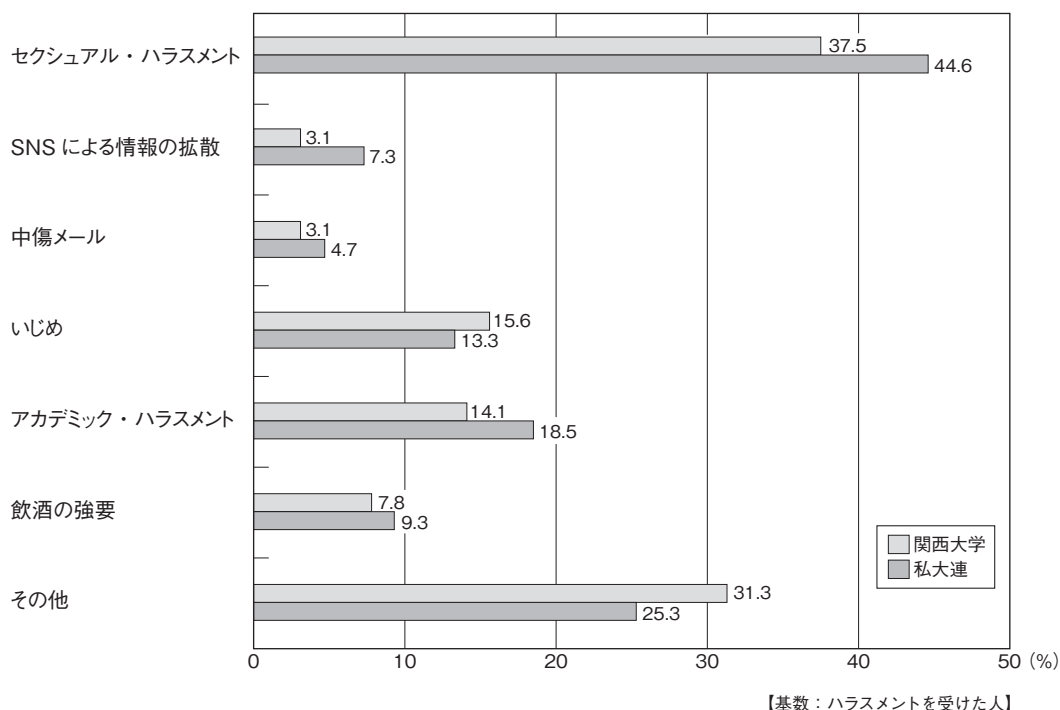
大学入学後ハラスメントや犯罪等の被害を「受けたことがない」と回答した学生は、96.4%で、全国平均と比較してもほぼ同じ結果となった。前回調査（2017年度）と比較すると、「受けたことがない」と回答した学生の割合は、本学では0.2ポイント、全国平均では1.6ポイント上回った。

多くの学生がハラスメントや犯罪被害を「受けたことがない」と回答する一方で、低い割合ではあるものの「受けたことがある」と回答した学生が一定数存在していることがわかった。

# ハラスメントの内容

## 問53

前問52で「ハラスメントを受けたことがある」と答えた方にうかがいます。ハラスメント<いやがらせ>等の内容は次のどれですか。(あてはまるものすべて)



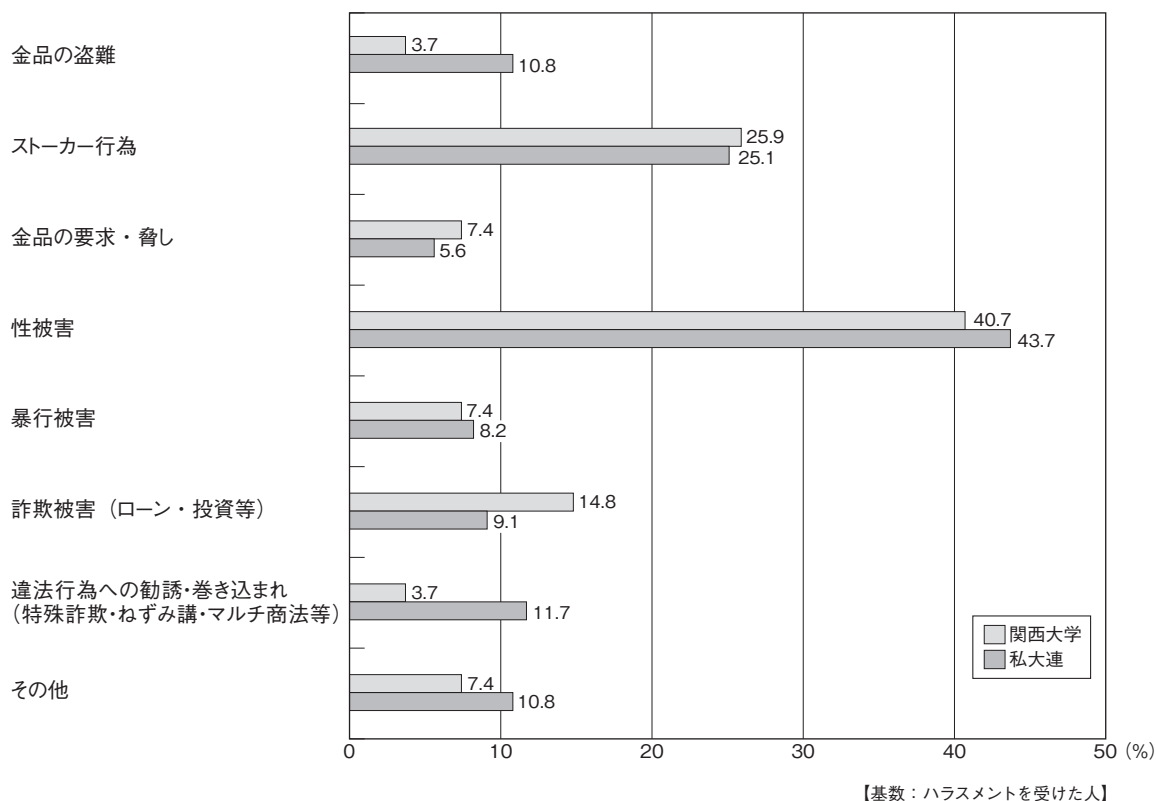
## 多様化するハラスメント

受けたことがあるハラスメントの内容としては、「セクシュアル・ハラスメント」の割合が37.5%と最も高く、次いで「その他」の割合が31.3%となっている。「その他」の割合は全国平均と比較しても本学が6.0ポイント上回っており、ハラスメント内容が多様化している傾向にあることがうかがえる。

なお、前回調査（2017年度）で23.9%と最も割合の高かった「アカデミック・ハラスメント」については、9.8ポイント下回る14.1%となっており、前回調査時から大幅に減少している。また「飲酒の強要」7.8%の割合についても、前回調査時から3.5ポイント下回り、減少傾向にある。

# 犯罪等の被害内容

問54 問52で「犯罪等の被害を受けた」と答えた方に伺います。その内容は次のどれですか。



## 「性被害」が最も高い割合に

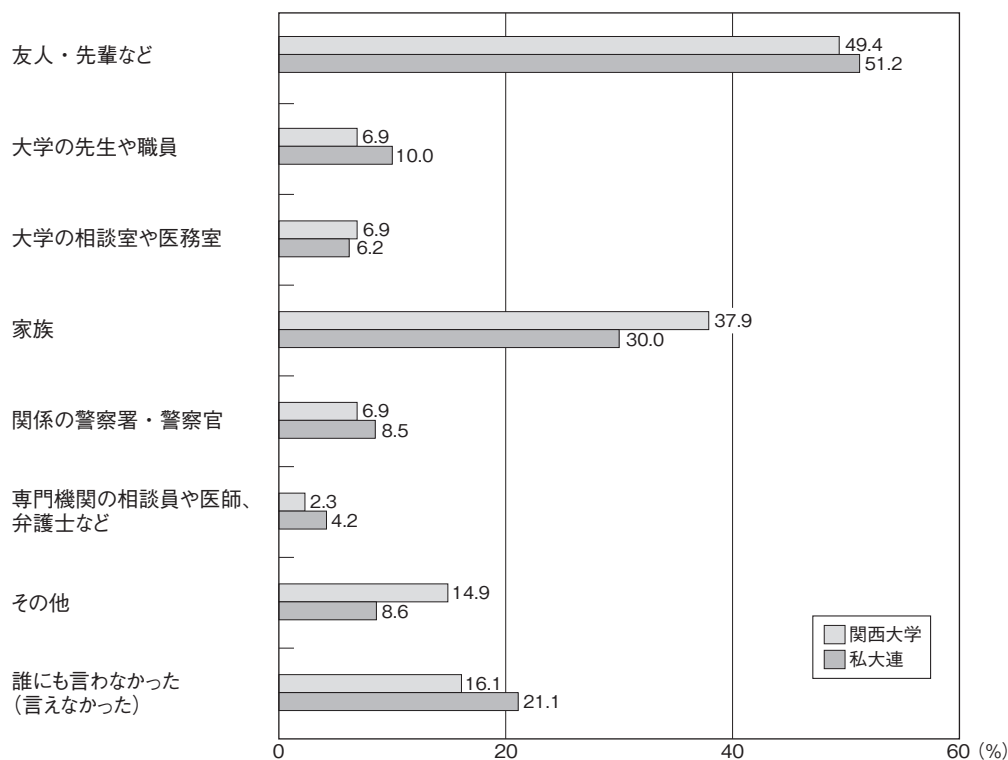
被害を受けたことのある犯罪等の内容としては、「性被害」の割合が40.7%と最も高く、次いで「ストーカー行為」の割合が25.9%となっている。これは全国平均と比較しても同水準であった。続いて「詐欺被害（ローン・投資等）」の割合は14.8%と全国平均と比較すると5.7ポイントも上回った。

また「違法行為への勧誘・巻き込まれ（特殊詐欺・ねずみ講・マルチ商法等）」及び「金品の盗難」の割合は3.7%と最も低い結果となった。

# ハラスメントや犯罪被害の相談相手

問55

ハラスメントや犯罪等の被害にあった時、あなたの力になってくれたのは次の誰（どこ）でしたか。  
（主な3つまで）



【基数：ハラスメントや犯罪等の被害を受けた人】

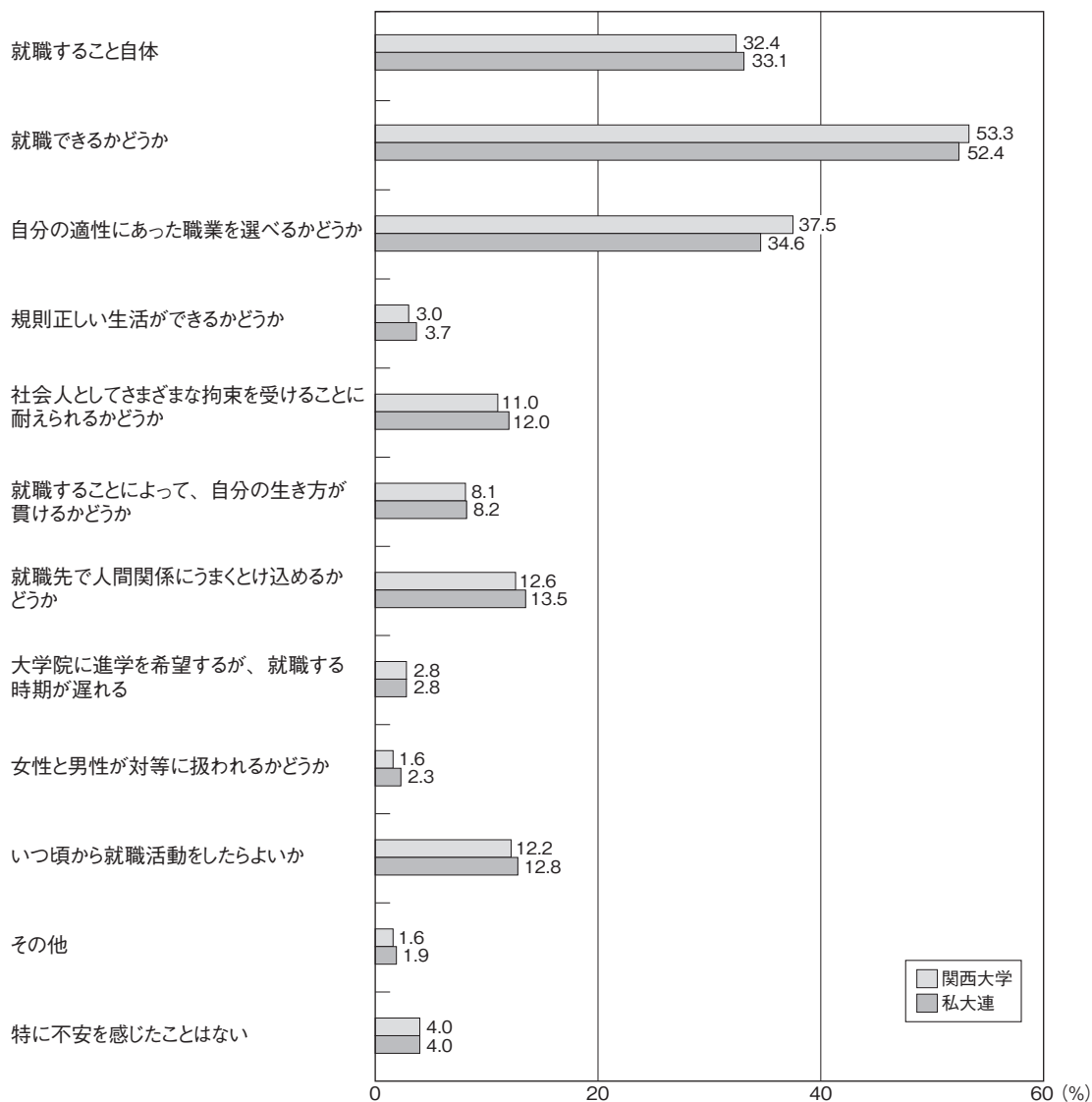
## サポートしてくれる友人や家族の存在

問51で不安や悩みの相談相手としても「友人」や「家族」と回答した学生の割合が高かったが、ハラスメントや犯罪等の被害についても同様に「友人」が49.4%と最も高く、次いで「家族」が37.9%と、サポートしてくれる友人や家族の存在が大きいことがわかった。

続いて「誰にも言わなかった（言えなかった）」と回答した学生の割合が16.1%と3番目に高く、友人や家族には打ち明けることができず一人で問題を抱えている学生が一定数存在していることがわかる結果となった。

# 就職への不安

問56 就職について次のような不安を感じたことがありますか。(2つまで)



【基数：対象者全員】

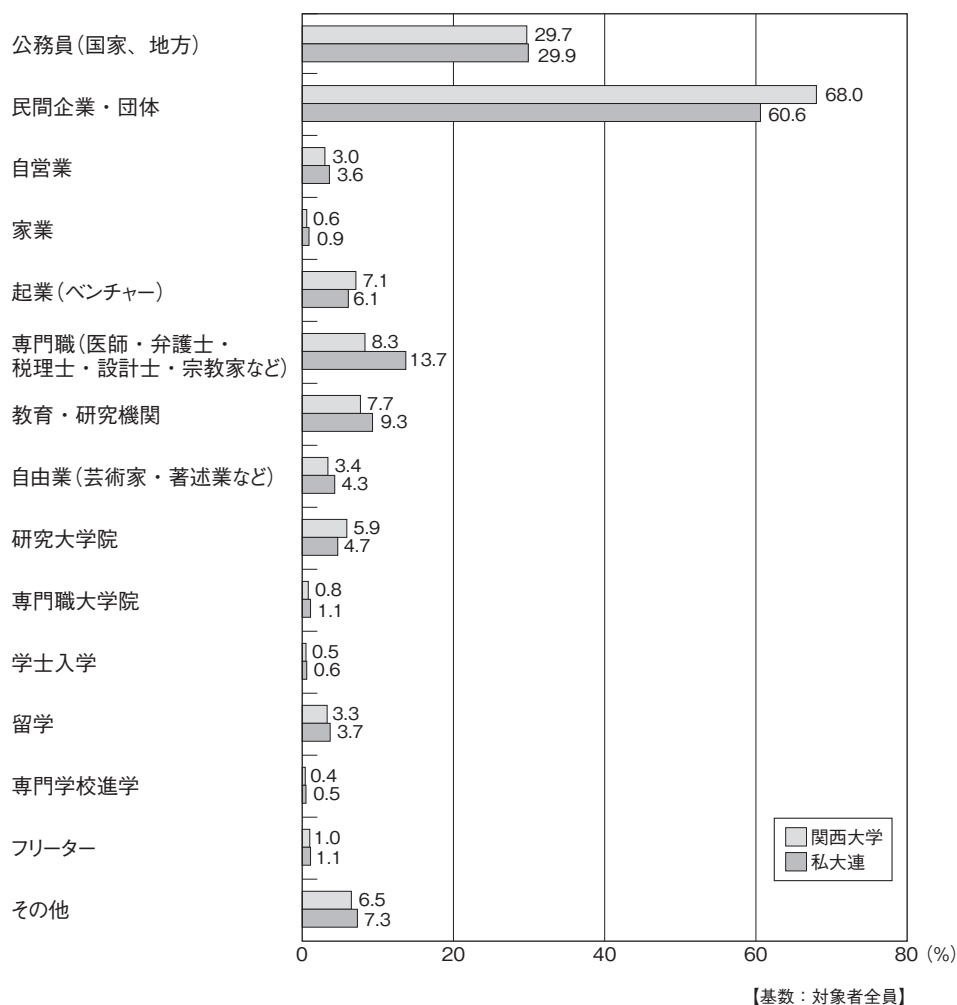
## 過半数以上の学生が「就職できるかどうか」について不安を感じている

就職に対する不安を調査したところ、53.3%の学生が「就職できるかどうか」について、不安を感じていることがわかった。また、全国平均と比較しても0.9ポイントと僅かではあるが、上回っている。また約4割の学生が「自分の適性にあった職業を選べるかどうか」について不安を感じており、この項目においても全国平均を2.9ポイント上回る結果となった。本学の就職率は高い数値を示しているものの、就職の可否ならびに自らの適性について、不安を抱いている状況といえるだろう。

就職の可否や職業選択に不安感を強めている学生に対し、キャリア意識の向上を含め、早急に対応を検討する必要がある。

# 希望する進路

問57 どのような進路を選択したいと考えていますか。(2つまで)



## 「公務員（国家、地方）」を希望する学生は減少傾向

希望する進路について、本学、全国平均ともに「民間企業・団体」または「公務員（国家、地方）」を選んだ学生の割合が圧倒的多数を占めている結果となった。しかしながら、前回調査（2017年度）と比較すると「公務員（国家、地方）」を希望する学生が、本学、全国平均ともに減少傾向にあり、昨今の社会環境における多様化する職業・働き方・キャリア開発が影響しているのではないかと推察できる。

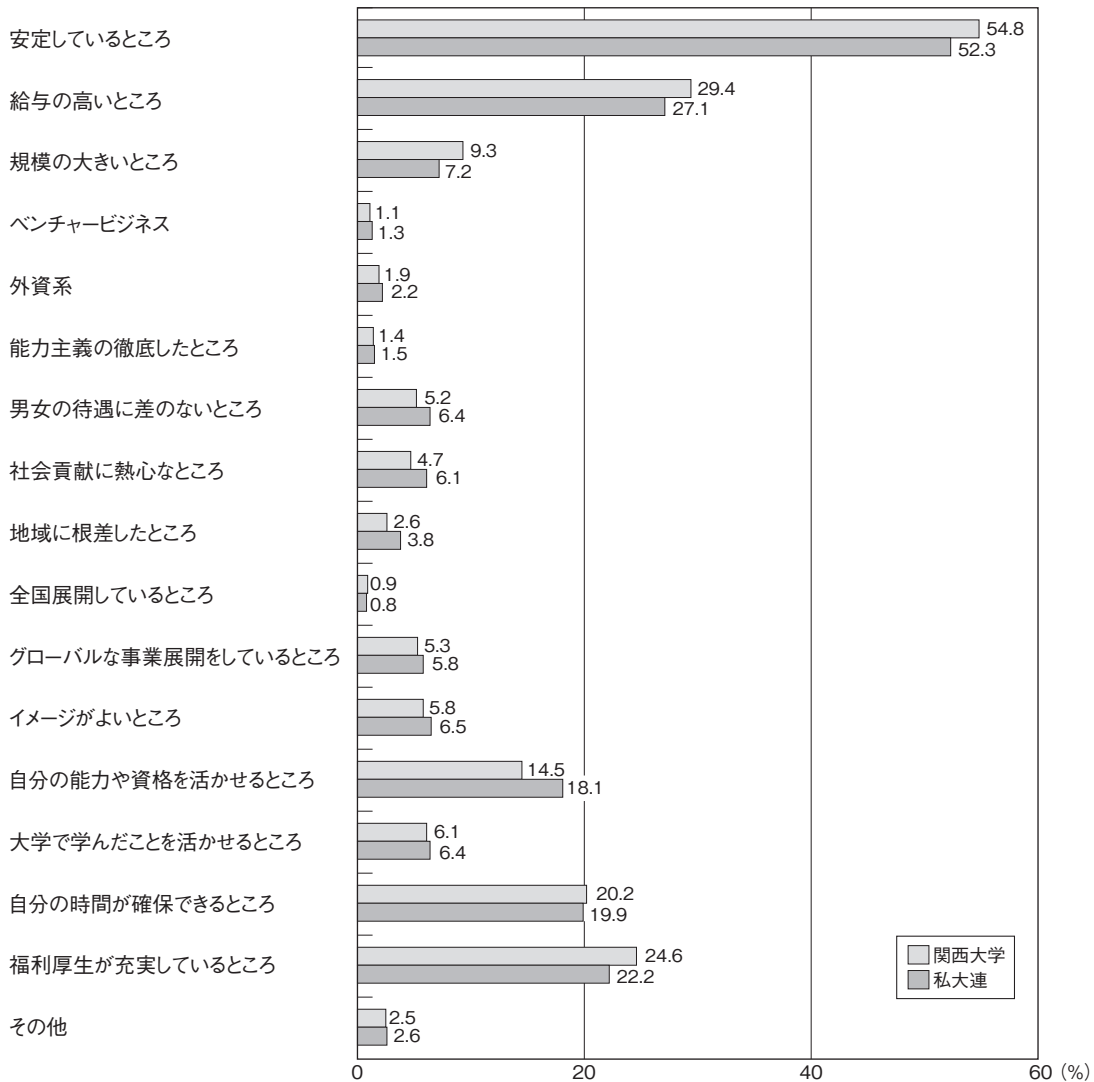
また、所属別にクロス集計表を見ると、「法学部」、「人間健康学部」、「社会安全学部」の学生において「公務員（国家、地方）」を希望する学生の割合が他学部と比べると高くなっており、学部独自の特色のある学びを国や自治体に還元し、社会の基盤作りに挑戦したいと考えている学生が多いことが分かった。



# 民間企業・団体への就職

## 問58

前問57で「民間企業・団体」と答えた方にうかがいます。どのような民間企業・団体に就職したいと思いますか。(2つまで)



【基数：民間企業・団体に就職したい人】

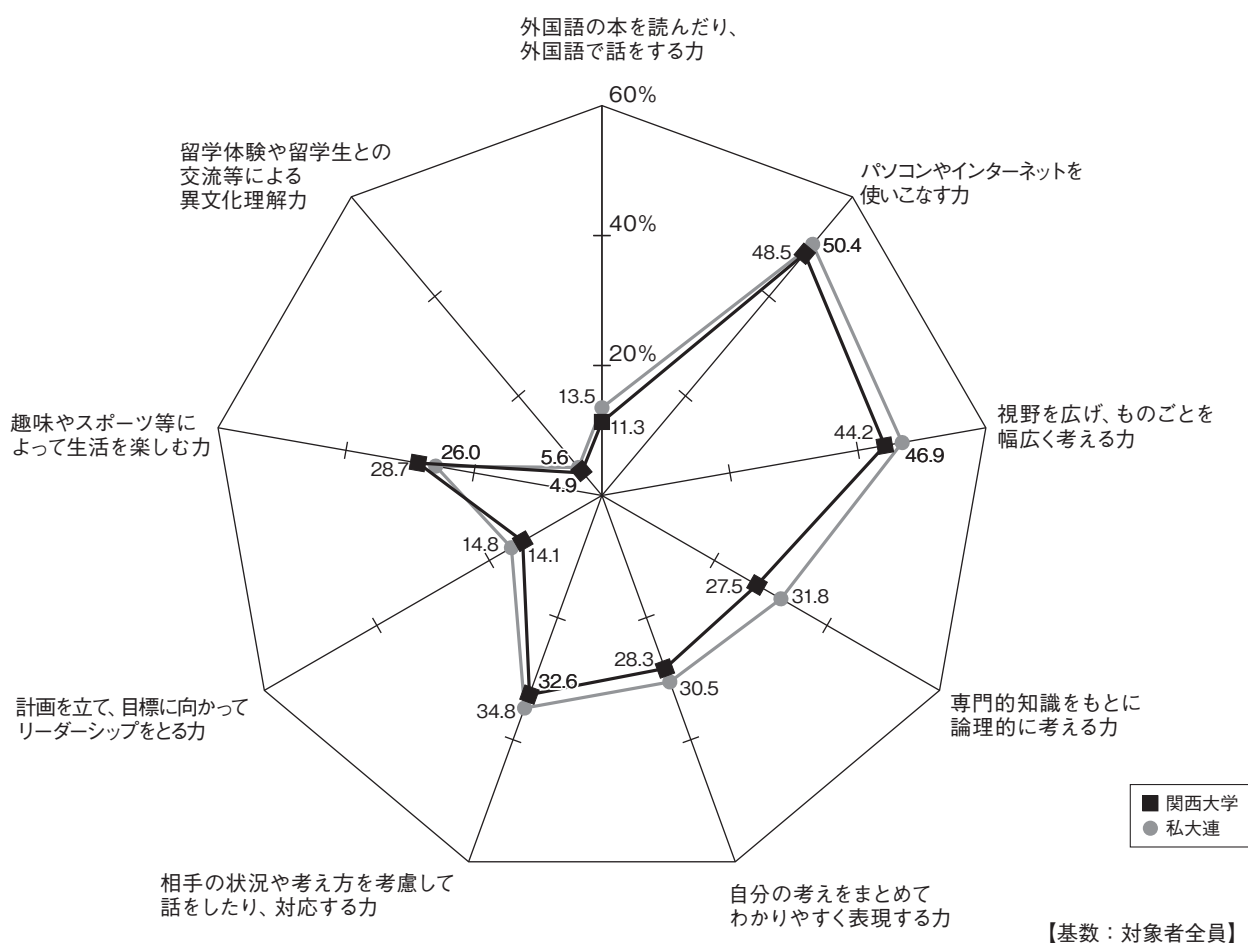
## 安定志向は継続

問57（希望する進路）において、「民間企業・団体」への就職を希望する学生に、具体的にどのような民間企業・団体に就職したいかを聞いてみたところ、最も割合が高かったのが「安定しているところ」で54.8%、次点に「給与の高いところ」で29.4%といった結果となった。この2項目は全国平均を上回る結果となり、その他に「規模の大きいところ」、「全国展開しているところ」、「自分の時間が確保できるところ」、「福利厚生が充実しているところ」の項目において、全国平均を上回った。

大手・安定志向は従来からの傾向であるものの、働き方改革や価値観の多様化が進む社会環境下において、仕事と生活のバランスがとれた状態（ワークライフバランス）を重視する傾向が伺える。

# 大学生活で身についたこと

**問59** 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどのようなことですか。(すべて)



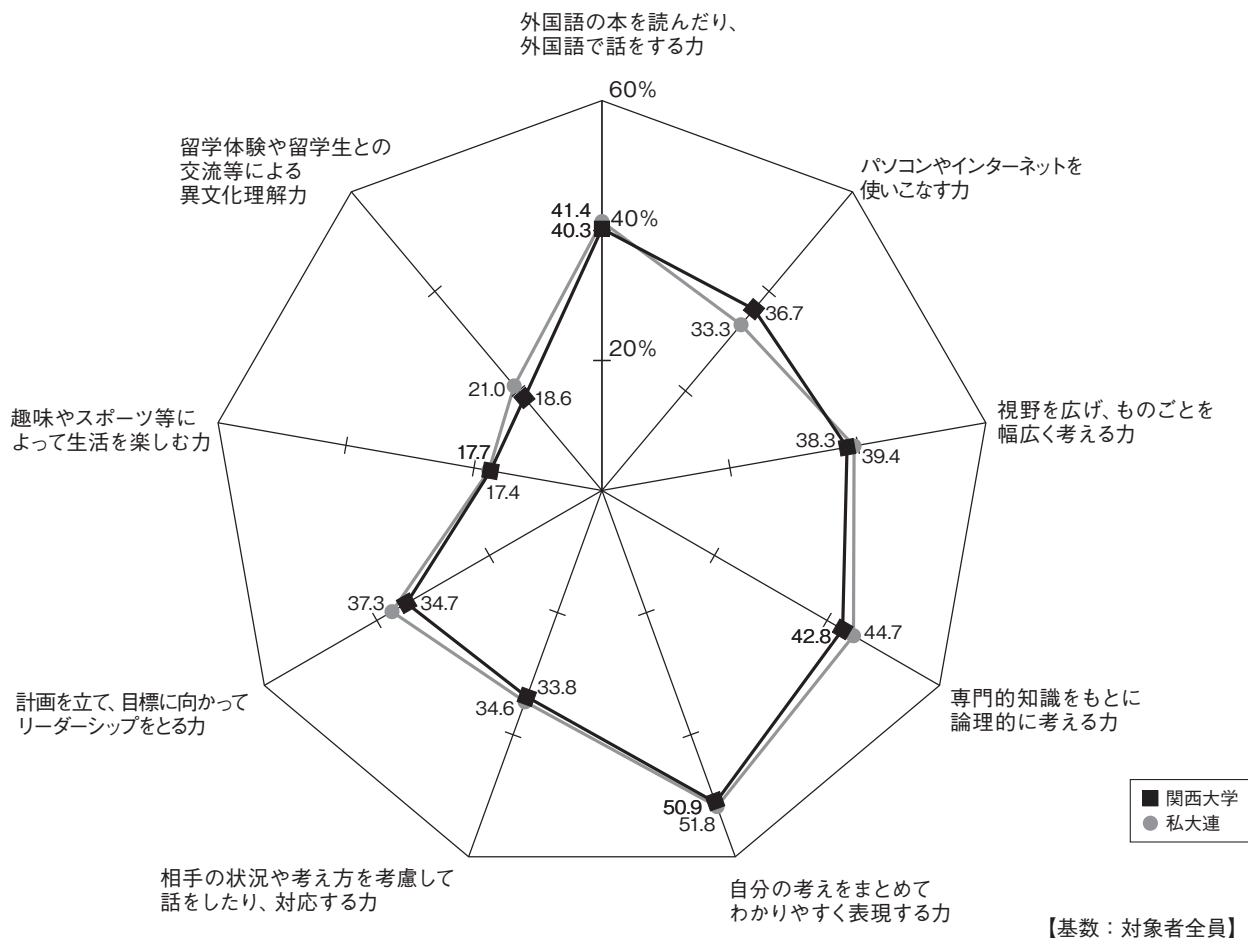
## 「パソコンやインターネットを使いこなす力」が第1位

大学生活で身についたと実感できる力について、最も割合が高かった項目が「パソコンやインターネットを使いこなす力」で48.5%、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」が44.2%、「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」が32.6%で続く結果となった。「パソコンやインターネットを使いこなす力」の項目は前回調査（2017年）と比較すると14.3ポイント上昇しており、本学におけるBYOD（Bring Your Own Device）の推奨およびそれらに伴うICT教育の環境整備等の効果が現れていると推察できる。

一方、前回調査（2017年）から引き続き、「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」、「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」の割合が全国平均よりも低いことが分かった。

# 大学生活で身につけたいこと

**問60** 今後、大学生活で身につけたい力はどのようなことですか。(すべて)



## 「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」が第1位

大学生活で身につけたい力について、最も割合が高かった項目が「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」で50.9%、「専門的知識をもとに論理的に考える力」が42.8%、「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」が40.3%で続く結果となった。

この設問で、高い結果となった「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」、「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」について、問59（大学生活で身につけたこと）では低い結果となっている。この結果から、本学学生が実際に大学生活を通じて身に付けたいと感じているものの、その力を伸ばす機会や力が伸びたという実感が十分に得られていないということがわかる結果となった。



関西大学